

ASAHI
PENTAX

KM



このたびはアサヒペンタックスKMを
お買い上げ下さいまして
誠にありがとうございます。

KMは昭和39年発売以来、トップセラーを続けた
ペンタックスSP、及びSPFの伝統を引きつぎ
新規のバヨネットマウントを採用した
実用性能の高い一眼レフであります。
ふつうの撮影には
主な機能だけで充分目的を果します。

先ず

2 ページで電池を入れ

次にフィルムを入れなくて

4、5 ページのショートコースで

充分練習して下さい。次には

6～9 ページでフィルムを入れ

10、11 ページは目を通し

12～14 ページでソフトケースの準備をし

15 ページでフィルムの巻戻しまで覚えれば

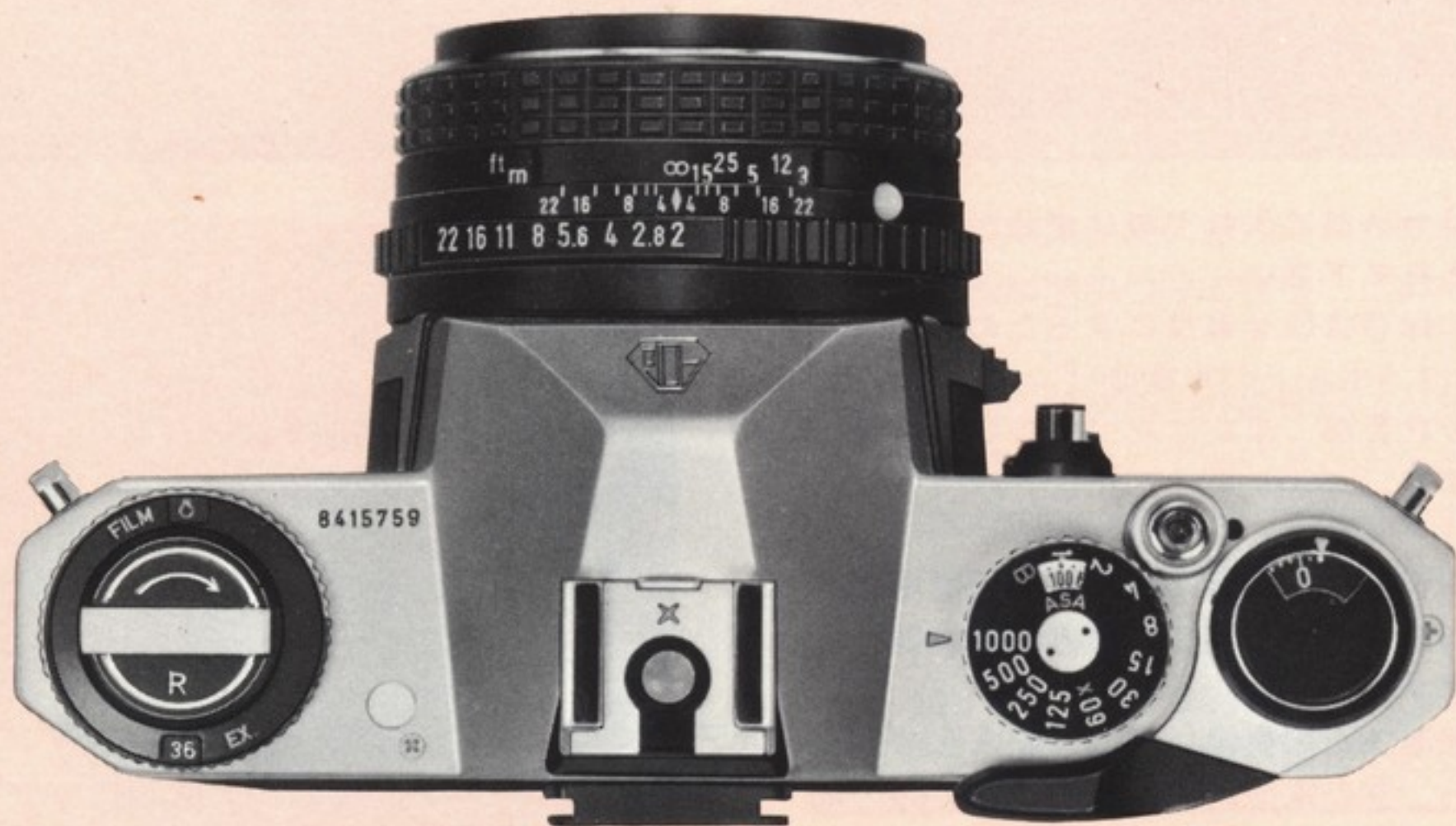
勇躍して撮影にお出かけになれます。

同封の愛用者カードは、ご記入の上、ぜひお送り下さい。
ご愛用者として登録し、将来ダイレクトメールなどに役立たせていただきます。

創造範囲を広げるシステムカメラ

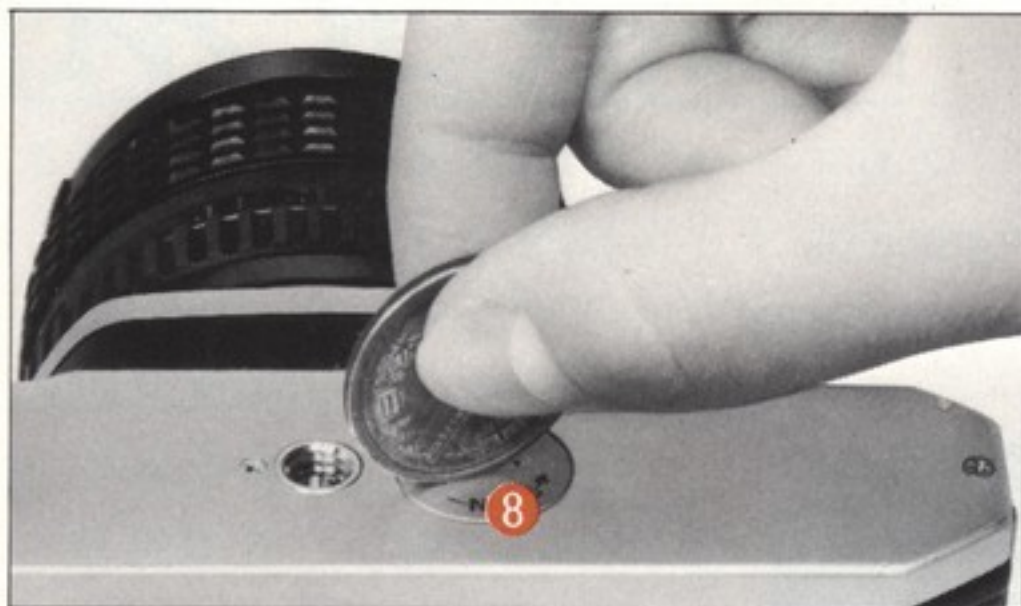
ASAHI
PENTAX

KM

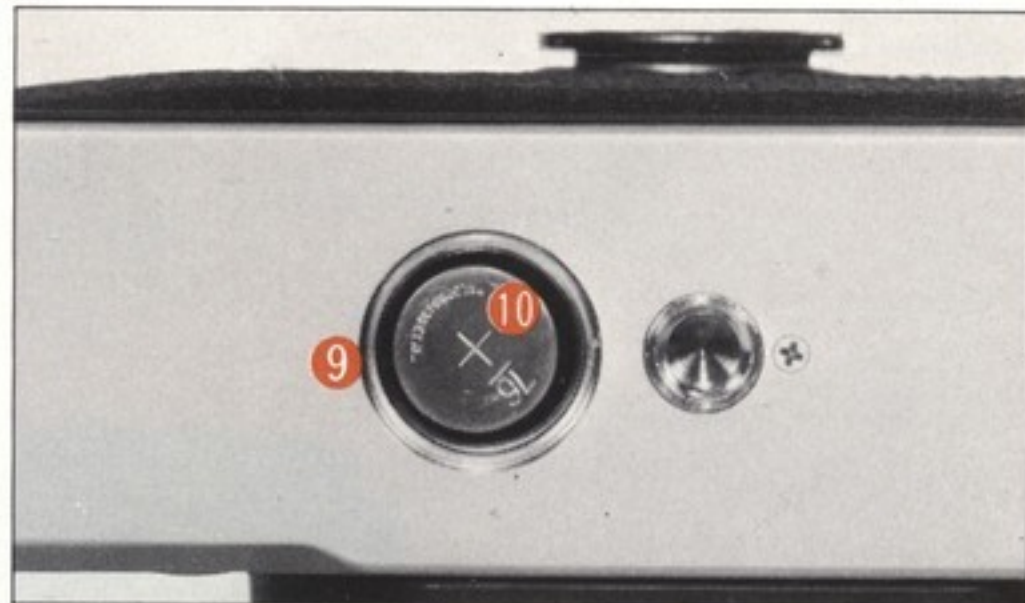


ペンタックス用として作られている他社製品を併用すると、故障の原因になったり、予期しなかった結果になることがありますので、ご購入に際しては充分ご注意ください。

電池〔バッテリー〕を入れる



2



電池はカメラに入れてありませんから、ご自分で入れて下さい。

〔電池の保存状態を最良にするため〕

KMは1.5ボルトの銀電池〔ソニー・エバレディーEPX76、またはマクセルG13〕を1個使います。

1図、ボディの底ぶたにある⑧の電池ぶたを硬貨などで左回し〔反時計方向〕に回してはずします。

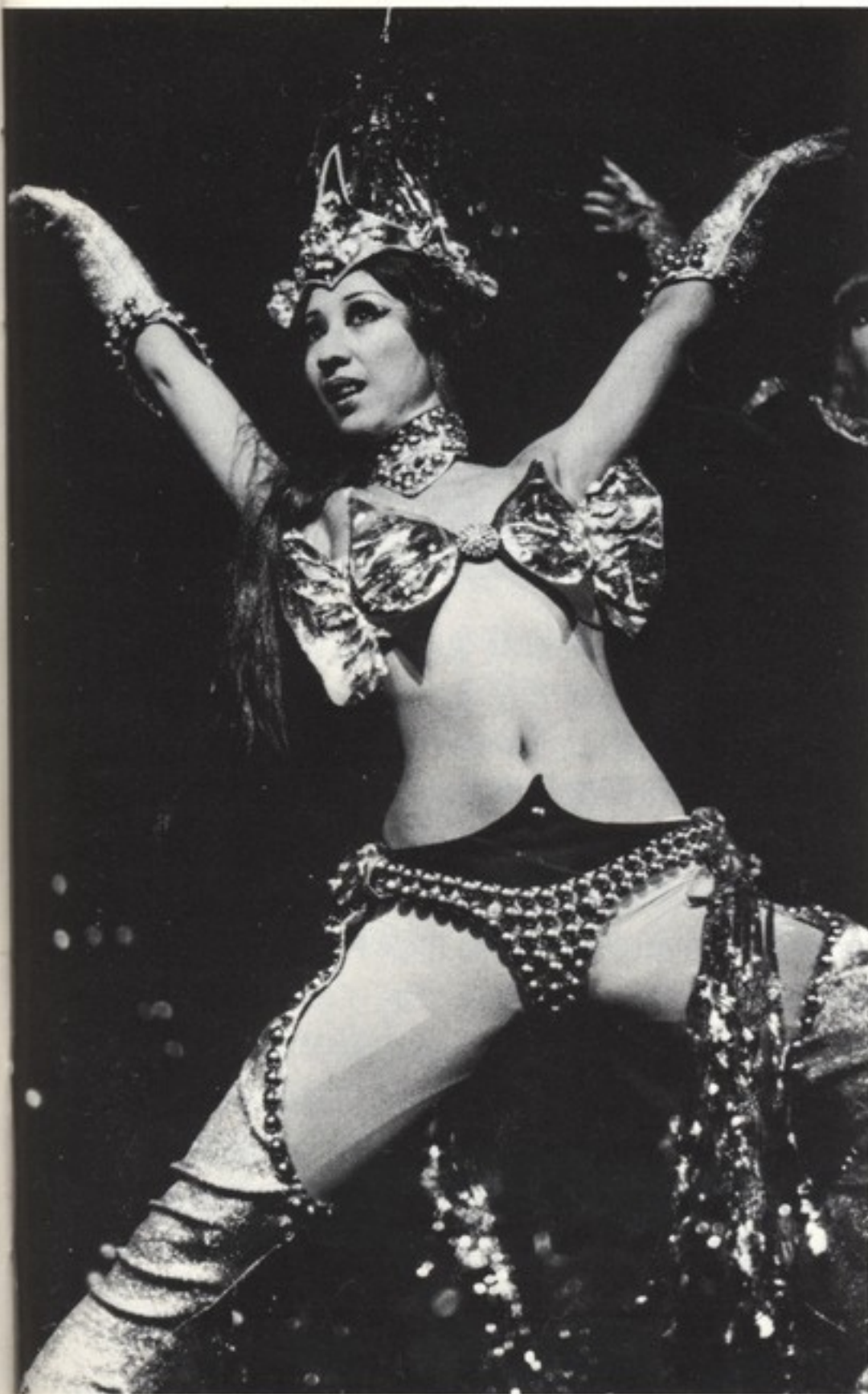
2図、電池ぶたの裏側には⊕が記入してありますから、⑨の電池室に⊕を上にして⑩の電池を入れ、電池ぶたを元通りにしめます。



銀電池を誤って火の中に入れるなど急激に熱すると、爆発の危険がありますからご注意ください。使用済みの銀電池は、カメラ店又はもよりのサービスセンターへお持ちください。なお、長期間使わないときは電池を必ず抜取ってください。漏液のため接点を痛めることがあります。

フィルター	レンズフード
49ミリ	49ミリ、丸型ねじ込み式、及び角型スプリング式 49ミリ、ラバーレンズフード

アフターサービスについて



- 1、修理を特にお急ぎの場合は、49ページの当社サービスセンター、出張所に直接お持ち下さい。郵送の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、しっかり包装し、書留小包便でお送り下さい。
- 2、保証期間中は保証書を同封することをお忘れなく。保証書がありませんと、本来は保証期間中であっても、修理が有料になります。
- 3、保証期間以後の修理は有料になります。運賃諸掛りはお客様にご負担願います。
- 4、本製品の補修用性能部品は、10年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお期間以後であっても、修理可能の場合もありますから、お買い上げ店、または当社のサービスセンター、出張所にお問い合わせ下さい。

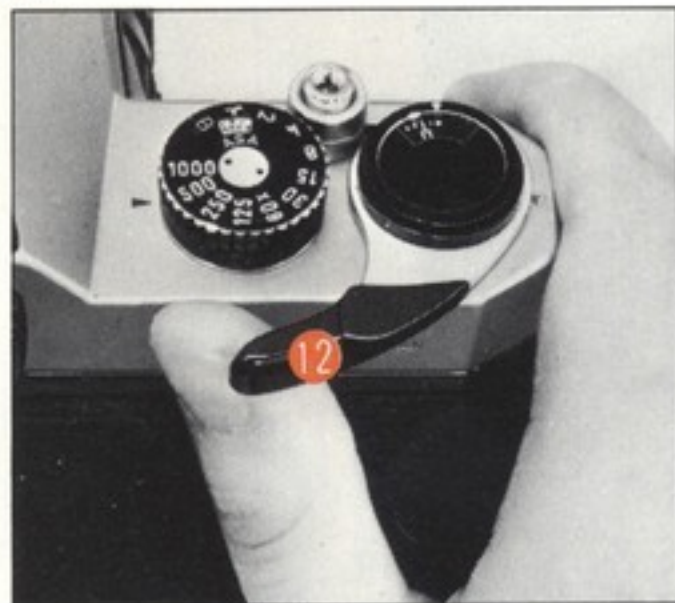
「東京都国際劇場、1階最前列」
50ミリ・F2、1/500秒、トライXパン
(ASA800に増感現像)

1



1図、⑪のレンズキャップの両側にあるぎざぎざの部分をはさんで押すとはずせます。

2

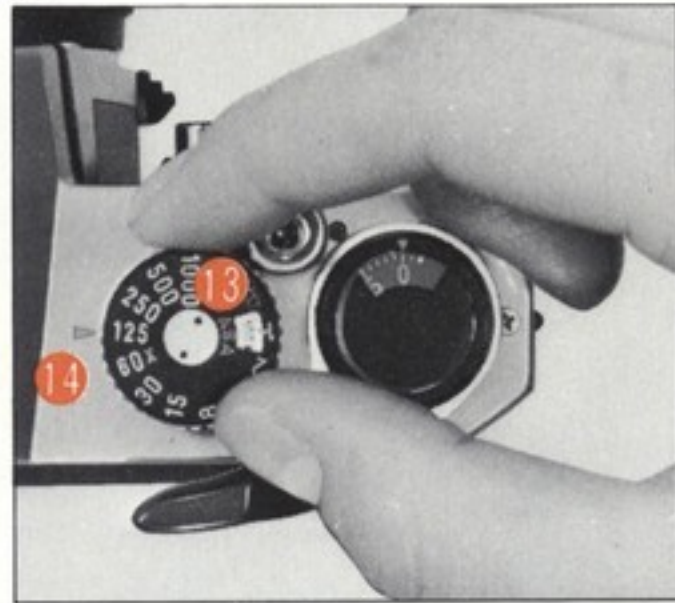


2図、⑫の巻上げレバーを引出し、止まるまで巻きます。一旦巻いた巻上げレバーは、手を放しても2図の位置でとまり、次の巻上げがしやすくなっています。

3図、⑬のシャッターダイヤルを右手の親指と人差し指ではさんで持ち、希望のシャッター速度〔分母だけで表示〕を⑭の指標に合わせる〔昼間の晴天ならば、250か125、曇天ならば125か60、室内ならば30〕。1/30秒より遅いシャッター速度で手持ち撮影をすると、カメラぶれしますから、必ず三脚を使って下さい。

4図、⑮のファインダー窓をのぞいて、⑯のピントリングを回して、被写体の中で主な部

3



分がはっきり見えるように調節します。カメラを使う時の状態で正視できない方〔近眼、老眼、遠視、乱視〕は、30ページをごらん下さい。

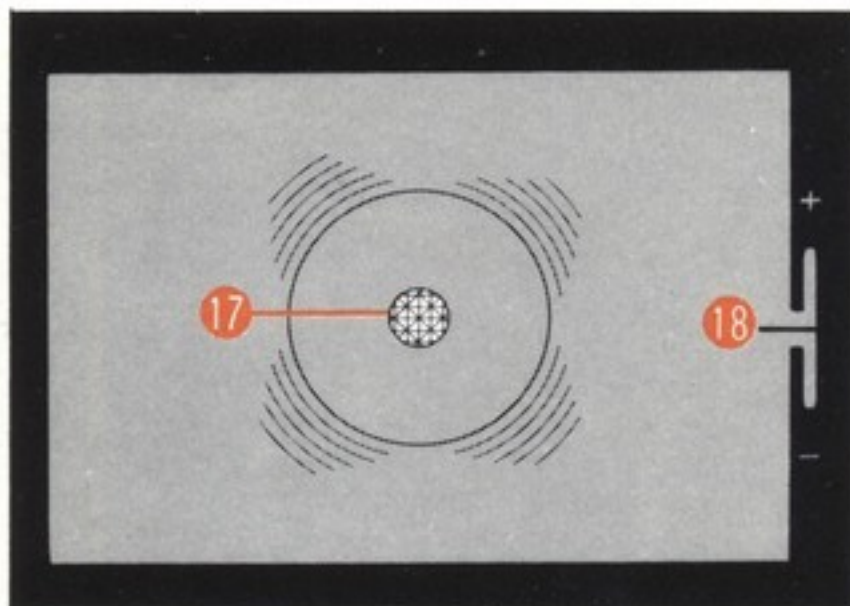
5図、ファインダー窓をのぞくと、中央の⑰の小円内は特に明るく、ここでピント合わせをするのが一番わかりやすいのですが、ファインダーのどの部分でもピント合わせができるのが、一眼レフの特長であります。

⑱の指針が溝の中央に来るように4図の⑲の絞り環を回します。指針が上側の十側にある時は、絞り環を時計方向に回し、指針が下側の一側にある時は、絞り環を反時計方向に回します。

4



5



6



これで露出は調節されたのですから、シャッターをきってよいのです。

もし⑱の絞り環を最小絞りの22にしても、指針が中央に来ない場合〔快晴の屋外で特に明るい被写体の場合、3図のシャッターダイヤルを30にしたような場合〕、3図のシャッターダイヤルを反時計方向に回して250前後にします。

また、もし⑱の絞り環を開放絞りの2にしても、指針が中央に来ない場合〔例えば、ふつうの明るさの室内で、⑬のシャッターダイヤルを250か125にした場合〕は、シャッターダイヤルを時計方向に回して、60か30にします。

こういう調節をしなくてすむように、3図でシャッター速度を指定したわけです。

6図、左手でカメラをしっかり支え、右手はやや軽く持って、人差し指で静かに⑳のシャッターボタンを押すと、シャッターがきれ、撮影の練習は1回の終わりです。被写体を変え、ピントも合わせ直してくり返して下さい。カメラの持ち方は大切なコツの一つですから、後で16、17ページをごらん下さい。

このほか、ストロボやセルフタイマーを使いたい場合は、18ページの目次を見て、指定のページをお読み下さい。

フィルムの入れ方

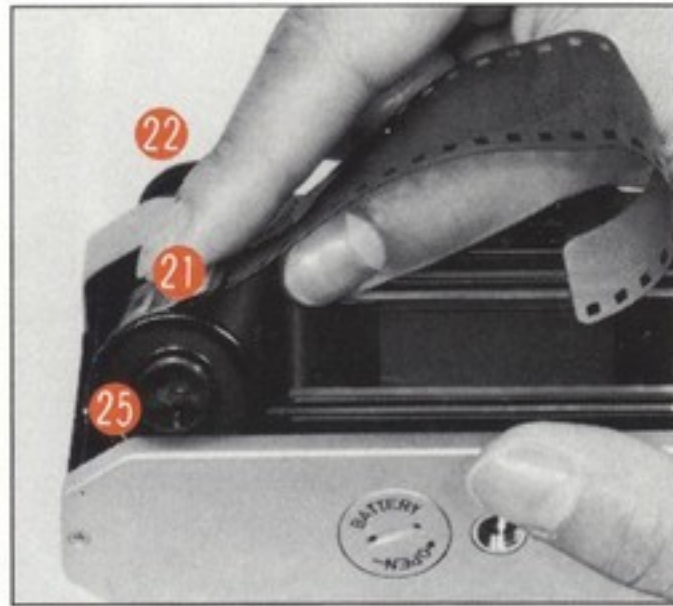
1



2



3



フィルムは市販の35ミリフィルムならば、何でも使えます。その種類は40ページにくわしく書いてありますが、国産フィルムの場合、カラープリントにするフジカラーF II、さくらカラーIIと、黑白写真にするネオパンSS、コニパンSSが最も多く使われています。

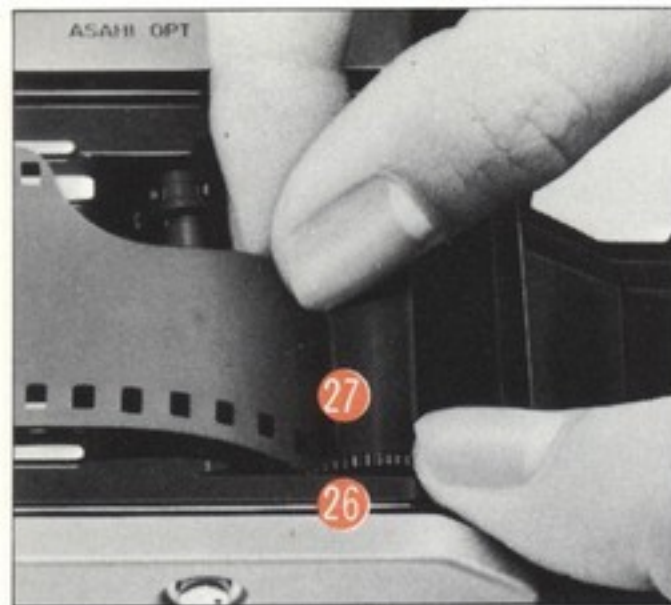
フィルムをカメラに入れる方法は、他の35ミリ判カメラと同様ですが、慣れないと失敗することがありますから、15ページの巻戻しまでを含めて慎重に行なって下さい。

1図、晴天の屋外でフィルムを出し入れする時は、**3図**の②①のパトローネ〔フィルム容器〕のテレンプ〔フィルムをはさんでいる黒い布〕のすき間から、直射日光が入ることがありますから、太陽を背にして、自分のからだの影にカメラを入れて行なって下さい。〔1本目は自宅でゆっくり入れた方が無難です〕

2図、②②の巻戻しノブについている②③の巻戻しクランクを起こして上に引っぱり上げると、②④の裏ぶたがあきます。

3図、②①のパトローネから出ているフィルムの先端を上にして、②⑤のフィルム室に入れ、②②の巻戻しノブを元通り押し込みます。

4



4図、フィルムの先端を少し引き出して、②⑥のスプールのつば〔ぎざぎざのある〕に接するようにして、②⑦の溝に充分さし込みます。溝の位置が入れにくい場合は、②⑥のつばを回して、好みの位置に直して入れます。

5



5図、①②の巻上げレバーを少し巻き、フィルムの両側にある穴〔パーフォレーション〕に②⑧の歯車〔スプロケット〕がかみ合っただフィルムを1センチか2センチ送るのを確認します。この時、フィルムが②⑨の光ったレールの中に正しくはまるようにします。②④の裏ぶたを押しつけると、音がして自動的にしまります。フィルムを1枚分も巻くのはむだです。

6

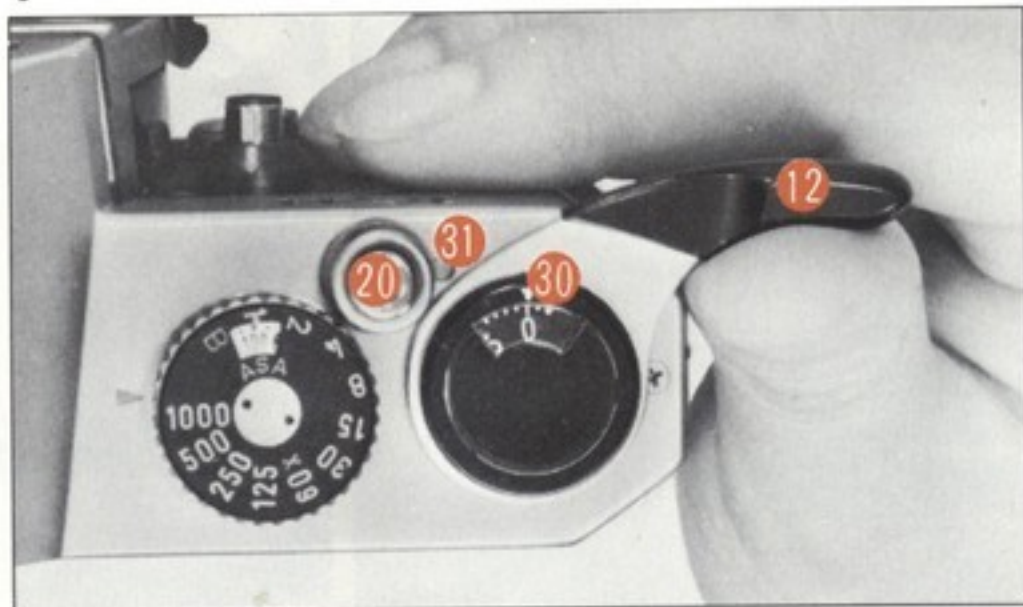


6図、②③のクランクを矢印の方向に静かに回し、手答えが重くなったらやめます。

から 空写し

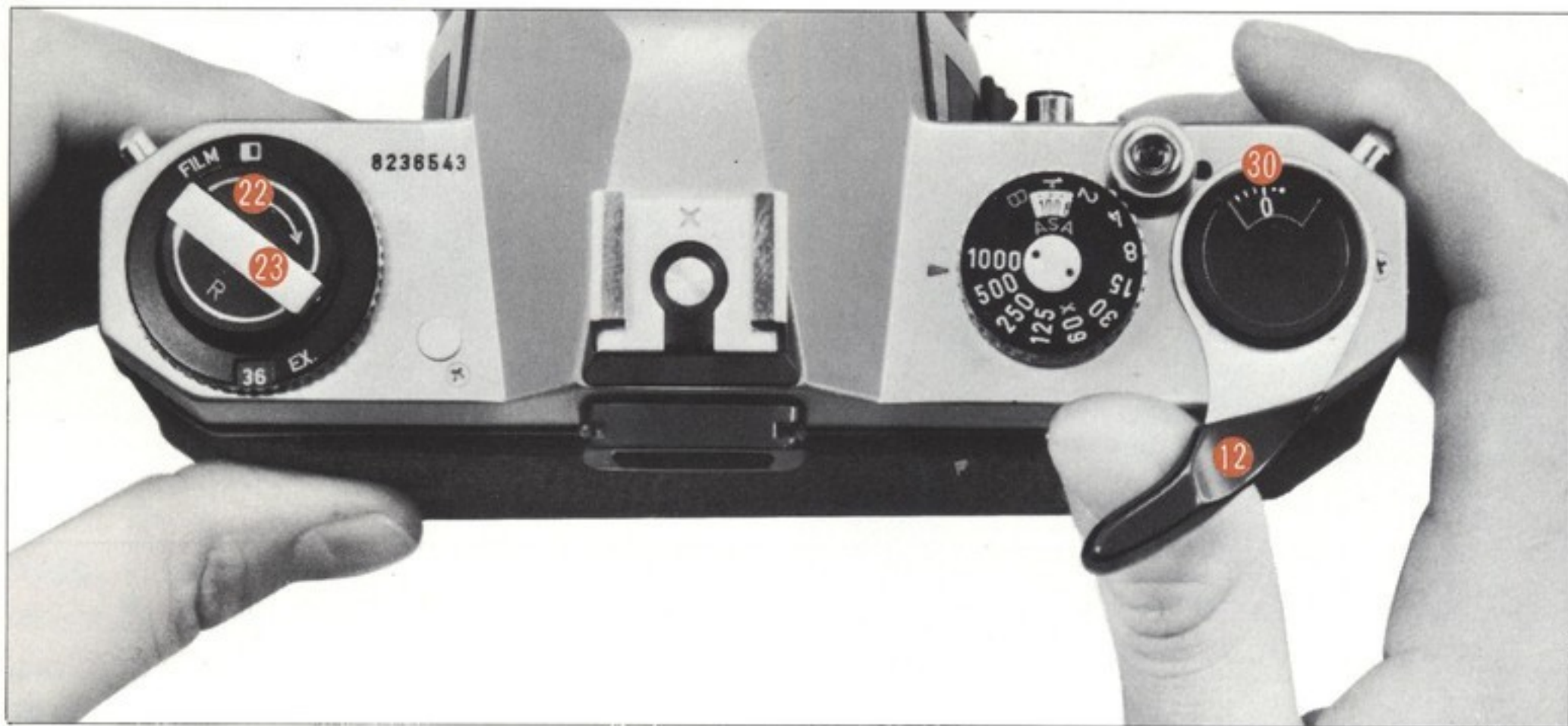
7図、③⑩の枚数盤を見ながら、①②の巻上げレバーを止まるまで巻いて、②⑩のシャッターボタンを押す動作を2回くり返すと、③⑩の枚数盤は0になり、次に巻上げると1枚目の撮影ができるわけです。この巻上げは1回で止まるまで巻かなくても、2回以上何回にでも分けて巻くこともできます。

7



1枚目までのシャッターは、撮影に用いていませんから、これを^{から}空写しと言いますが、フィルムを入れる時、パトローネから出ているフィルムは既に光が当たっていて撮影に使えないからです。

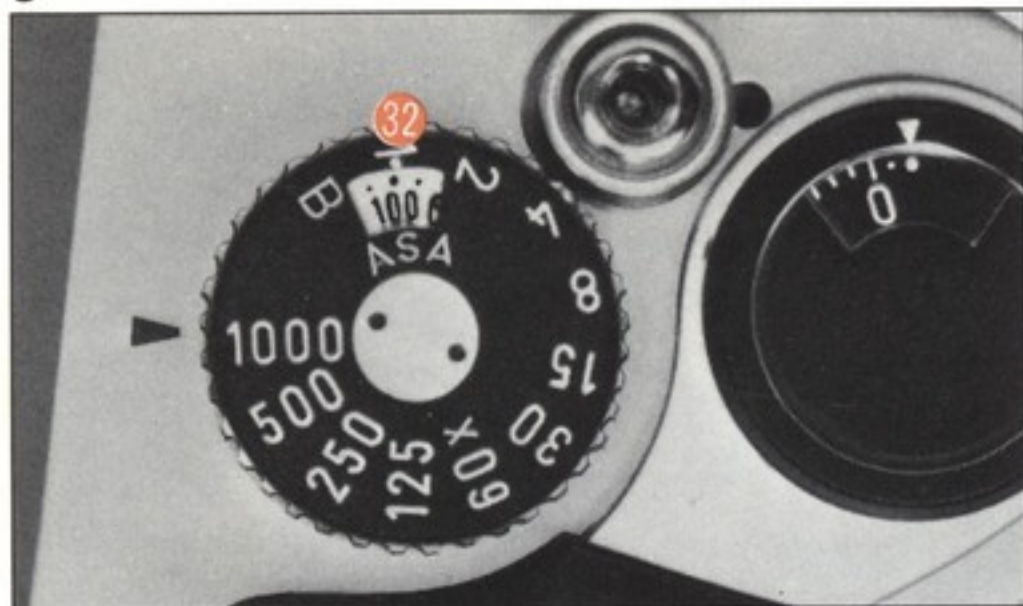
フィルムを巻上げると、③⑩のフィルム巻上げ表示窓は赤になり、シャッターをきると黒になり、外観から巻上げの前後を判別できるのがKMの特長になっています。



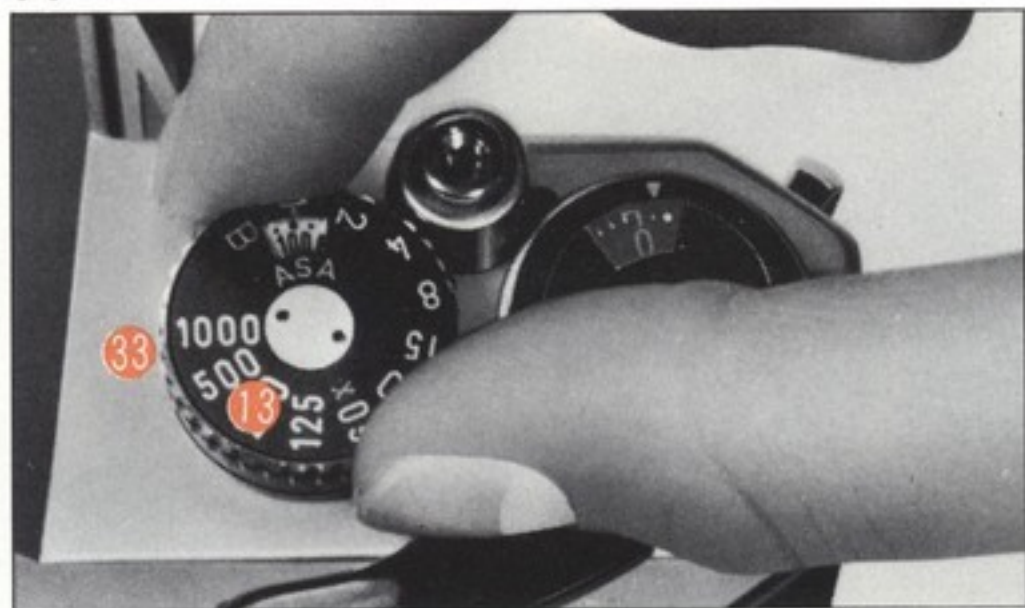
8図、空写しの時大切なのは、⑫の巻上げレバーを巻きながら、⑬のクランクを見ると、⑭の巻戻しノブが矢印と反対方向に回って、フィルムが確実に巻上げられているのを確認して下さい。この確認を怠ると、フィルムは巻かれていなくても、ショートコースで体験したようにシャッターはきれ、⑮の枚数盤は進みますから、誤っていることに気がつかないのです。

フィルム感光度を合わせる

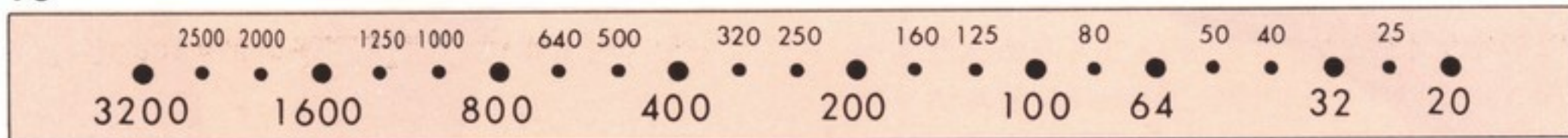
9



11



10

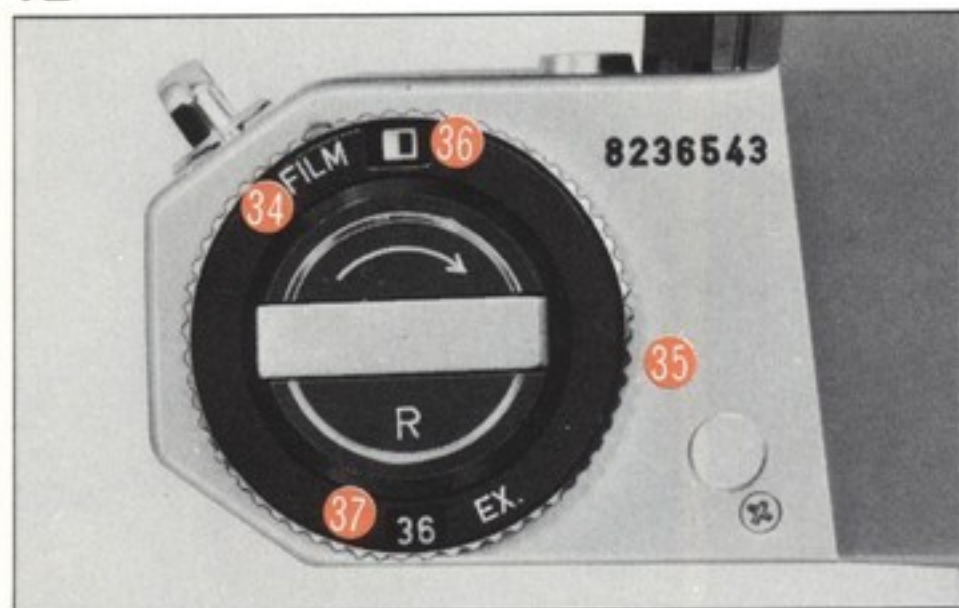


9図、国産フィルムで多く使われているフィルムは、カラーも黑白も感光度は100で、③②のASA感光度目盛は100に合わせてあります。もし感光度の異なるフィルムを使う時は、必ず合わせ直して下さい。

フィルムの光の感じ方には、速いものと遅いものがあり、これはASA感光度で現わし、数に比例して感光度が速くなります。例えば、400は100の4倍ですから、シャッターは $\frac{1}{4}$ ×の、より速いシャッター速度が使えます。

③②のASA感光度目盛は、中間の数字が略されていて、くわしくは10図のようになっています。

11図、ASA感光度は、フィルムの外箱に必ず書いてあります。100以外のフィルムを使う時は、③③のシャッターダイヤルの③③の外側リングを持ち上げて回し、希望のASA目盛を窓の中心に合わせて指を離すと固定されます。



フィルムインディケーター

12図、自分がカメラに入れたフィルムが何であったかを忘れないために、③④のフィルムインディケーターがあります。③⑤のローレット環を回して、③⑥の窓にフィルムの種類別を表示します。

また③⑦の窓はフィルムの36枚どりと20枚どりの区別する表示で、やはり③⑤のローレット環を回します。中味は一つの円盤で、一緒に回りますから、フィルムの種類別と枚数別をそろえなくてははいけません。

- … 黑白フィルム
- ☼ … 昼光用
カラーフィルム
- ⊗ … 電燈光用
カラーフィルム



ソフトケースの使い方

1



1 図、ソフトケースは、③⑧の前ぶた、③⑨の底ぶた、④⑩の肩ひも、留め金、環、④③のショルダーパッドからできています。

2 図、前ぶたはうしろ側の二つのホックであけられます。

3 図、カメラを底ぶたに入れ、④④の締めつけねじをカメラの三脚ねじ穴に入れ、時計方向に回して締めつけます。

2

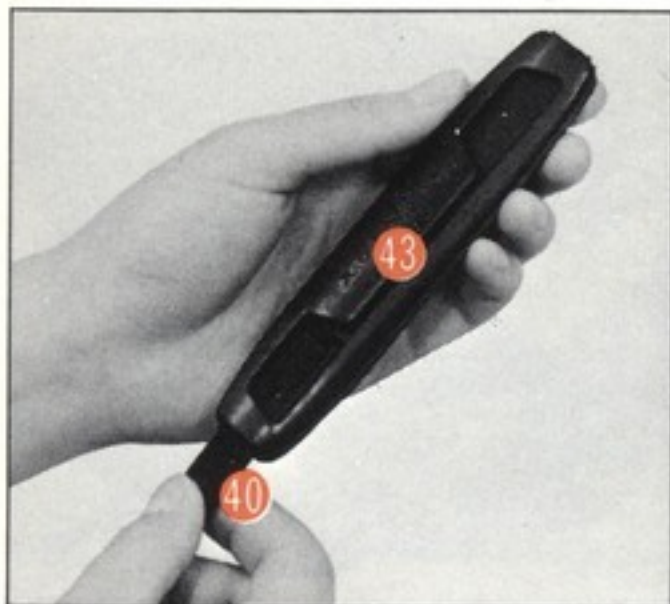


3

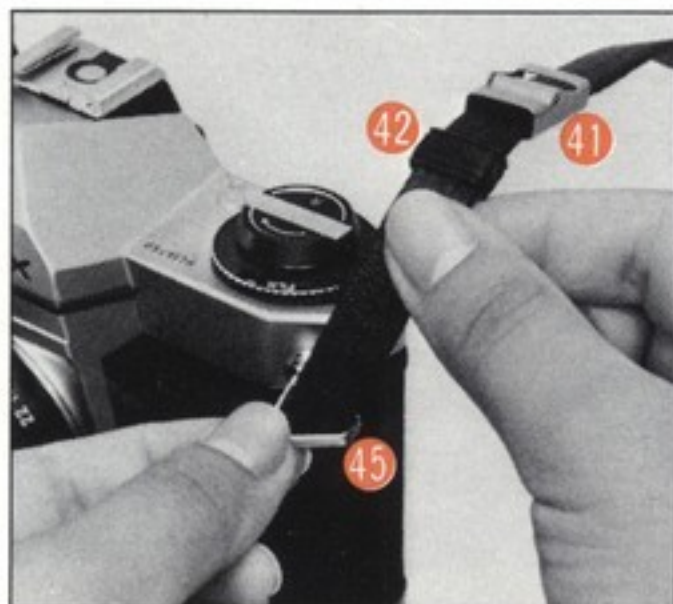


4 図、④⑩の肩ひもは、両はしに留め金と環がついています。片方の留め金と環を一旦はずし、折ってあった内側を上にして、④③のショルダーパッドの一方の穴から通し、他の穴から引き出します。こうすれば肩ひもとショルダーパッドははずれません。ショルダーパッドは肩にかけた時のすべり止めです。

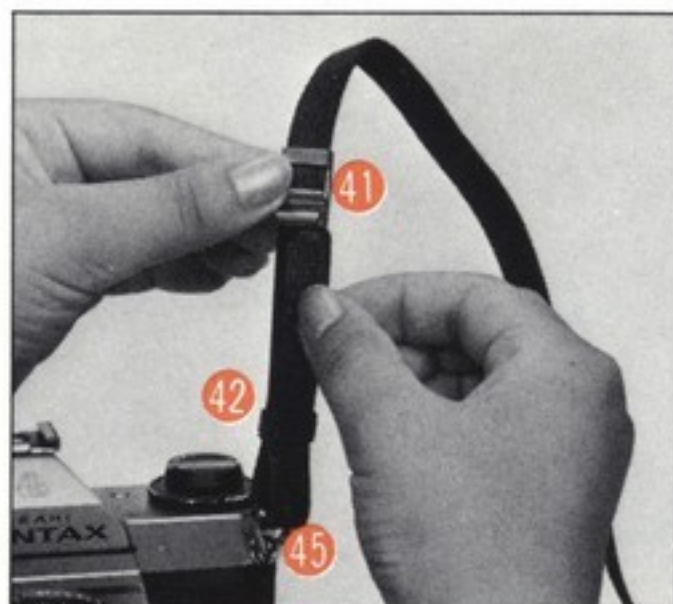
4



5



6



5 図、折ってあった内側を手前にして、④①の留め金と④②の環を元通り通し、カメラの④⑤の三角金具に通します。

6 図、肩ひもを折り曲げて④②の環に通し、④①の留め金に通して、ばね板を倒して固定します。

他の肩ひもの端も同様にして三角金具につながります。肩ひもの長さは好みによって自由に変わります。

このように折り曲げた先が外側に出るようにしないと、体裁も悪く、長さを変えたり、肩ひもをはずす時に不便です。

7



7図、これでケースの準備はでき、7図のように前ぶたをあけたままで撮影ができるので、速写ケースと言います。

8図、カメラを縦位置にすると、前ぶたがじゃまになることがあるので、前ぶたと底ぶたははずせるようになっていました。③⑧の前ぶたを上押し上げると、③⑨の底ぶたからははずせます。とりつけるときは、この逆に③⑧の丸金具を③⑨の丸穴にはめて押し下げます。

8



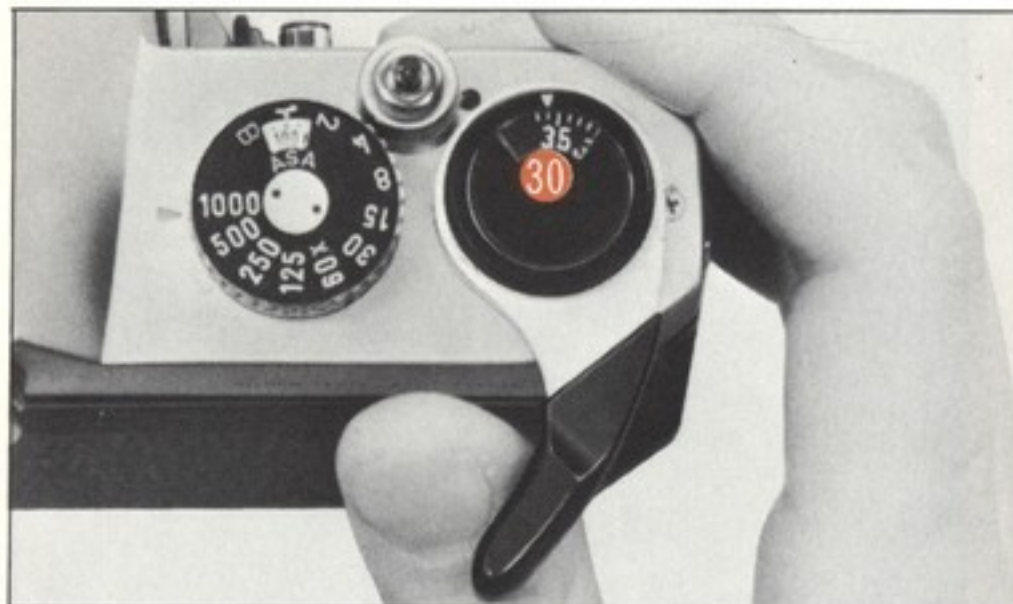
9



9図、④⑥の丸型レンズフード〔別売り〕は、レンズに逆向きにかぶせられます。レンズのピントリングを∞に合わせておくと、フィルター1枚〔偏光フィルターを除く〕をつけたままでソフトケースに入ります。逆向きのレンズフードにスプリング式のレンズキャップをとりつけられます。

なお12ページ3図、④④のしめつけねじには三脚ねじ穴がついていますから、三脚につけられます。ただし、きつくしめすぎると、三脚がとれなくなることがありますから、三脚はカメラに直接つけた方が無難です。

10

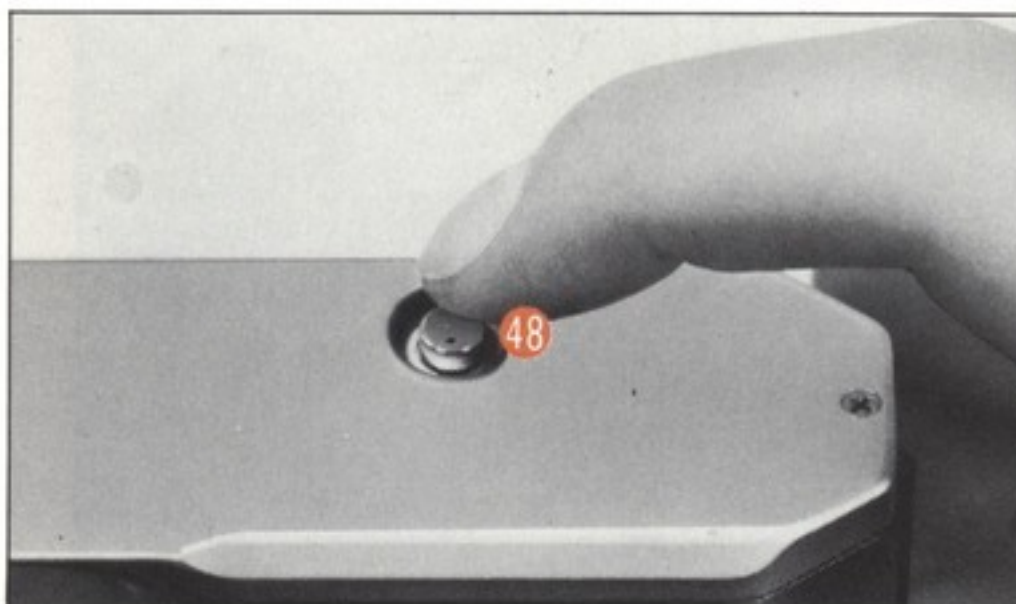


10図、フィルムには36枚どり、24枚どり、12枚どり〔黑白フィルムとリバーサルカラーフィルムには12枚どりが無い〕と枚数に種類があります。その規定枚数より少し多い枚数になると、大抵は巻上げの途中までしか巻上げられません。枚数は**30**の枚数盤でわかりますから、それ以上無理に力を入れて巻上げてはいけません。

フィルムの巻戻し

35ミリ判カメラは、パトローネから裸のフィルムを引き出してスプールに巻とりますから、フィルムの終りまで撮影したら、次の巻戻しをしなければなりません。

11



11図、カメラの底ぶたにある**48**の巻戻しボタンを押すと凹み放しになります。8ページ、**6図**の**23**のクランクを起こして矢印の方向に巻きます。8ページ**6図**の場合と違ってどんどん巻いてよいのですが、36枚どりフィルムで30回以上、24枚どりフィルムで23回以上巻くと、急に手答えが軽くなるので、巻戻しが終わったことがわかります。〔手答えが軽くなるのは、7ページ、**4図**のスプールからフィルムの先端が離れるからです〕**48**の巻戻しボタンは巻戻し中、赤点が回るので巻戻ししていることがわかります。巻戻しが終わると、赤点が止まるので、終わったことがわかります。

もし、**48**の巻戻しボタンを押しても凹み放しにならない場合は、巻戻しボタンを押しながら巻戻しをして下さい。

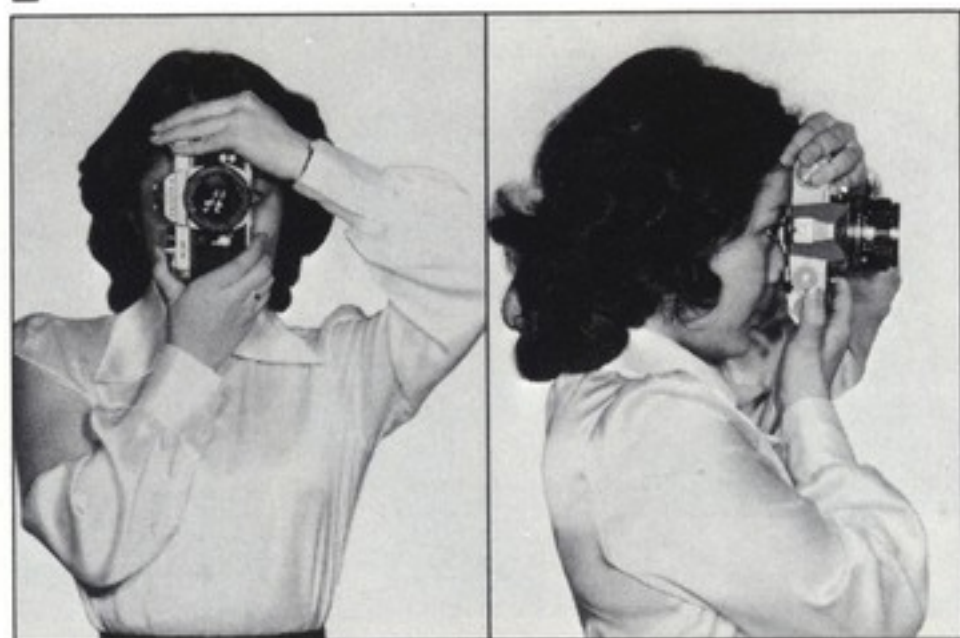
カメラの持ち方

1



横位置： 右ひじをからだにつけ
左手でカメラをしっかり支える

2



縦位置： 右ひじをからだにつけ、左手で
カメラをひたいにしっかり押しつける

ピントがよくない写真ができる原因の十中八、九までは、カメラぶれとピントの合わせ方がよくないためです。特にカメラぶれはカメラが何であっても現実には多いので、使う方の注意が必要です。

横位置、縦位置を通じて、カメラをじょうずに持つコツは、シャッターボタンを押さない方の手、つまり左手でしっかり持ち、ファインダー窓や裏ぶたを顔にぴったり引きつけます。右手はやや軽く持って、この3個所で三脚の役目をするようにします。A図のように、顔からカメラが離れていてはいけません。

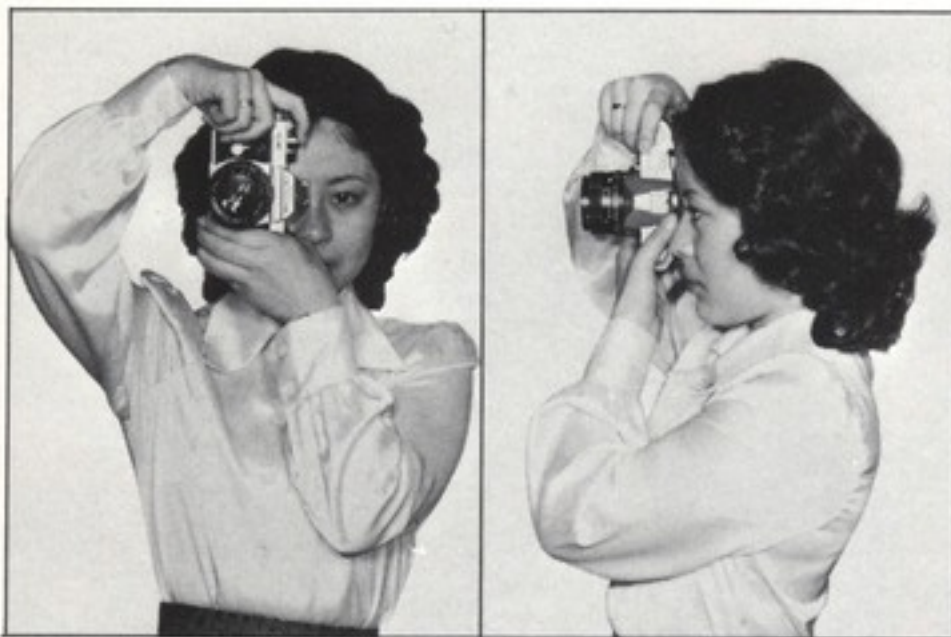
シャッターボタンを押す右手に力を入れると、かえってシャッターをきる時にカメラが動くのです。

シャッターボタンは静かに押し、いっぺんに押しきってはいけません。

1図の横位置の場合、右手の薬指をボディーの下側のふちにあてると、しっかり持てます。

縦位置の持ち方には、2図、3図のように2種類あって、どちらか好みの方を選べばよいのです。3図の持ち方は右肩にバッグを下げている時はできませんから、バッグは左肩に下げて下さい。

3



縦位置： 左ひじをからだにつけ
右ひじを充分に上げる

2 図の場合は親指でシャッターボタンを押さなくてははいけません。B 図のように、人差指で押そうとすると、右手でボディの上下をはさんで持てないのでいけません。

1 図の横位置では必ず人差指でシャッターボタンを押しますから、2 図の縦位置では手を持ち変えなくてはなりません。

ピントがよい、きれいな写真をとるために、カメラの持ち方、シャッターのきり方は充分に練習して下さい。

カメラぶれやピント合わせがよくないのは、引伸してみなくても、10×の虫めがね〔ルー

A

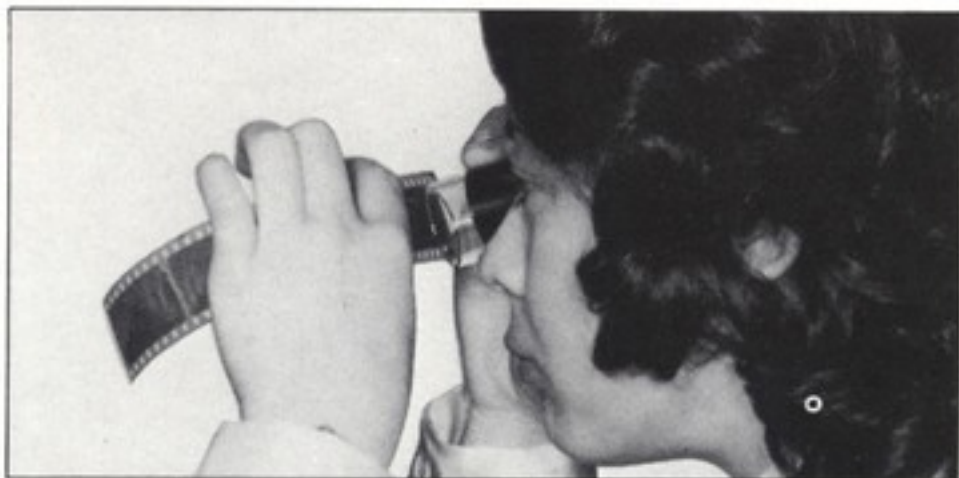


B



悪い持ち方の一例

4



ペ]をカメラ店で求め、4 図のようにフィルム〔ネガフィルム、またはカールスライド〕を透視して見て、ピントを合わせたはずの部分が、はっきりしていないのでわかります。

一般的な撮影には

電池を入れる	2
ショートコース[フィルムを入れなくて]	4・5
フィルムの入れ方、空写し	6~9
フィルム感光度を合わせる	10
フィルムインディケータ	11
ソフトケースの使い方	12~14
フィルムの終り、フィルムの巻戻し	15
カメラの持ち方	16・17
ストロボを使うには	20
セルフタイマーを使うには	21

KMハイクラスコース

露出計のくわしい使い方

シャッター速度優先が常道	22
測光範囲	23
フォトスイッチ	24
バッテリーチェック	24・25
Bの機能	25

電池消費時のシャッター	25
露出調節のコツ	26~28
ピント合わせと視度調整	29・30
絞り	31~33
被写界深度と被写界深度目盛	31~33
手動絞り	32
レンズ着脱	34・35
閃光電球を使うには	36
赤外線指標	37
従来のタクマーレンズを使うには	38・39
マウントアダプターKの使い方	38・39
フィルムの種類	40
KMの耐温度性	41
二重〔多重〕露出のしかた	41
カメラ取扱い上の注意	42・43
KMの部分名称	44・45
索引	46・47
KMの機能諸元表	48
営業所・サービスセンター案内	49



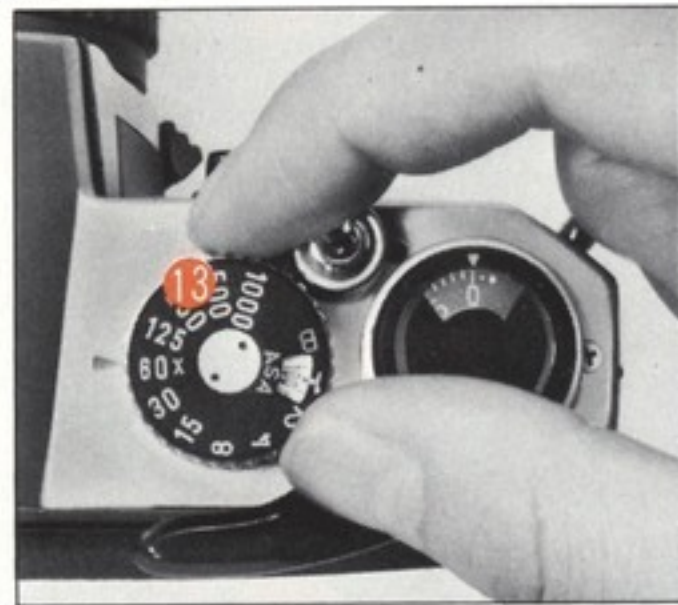
ストロボ撮影に

1



1 図、A F-16やオートロボのようなホットシュー用のストロボは、④9のホットシューにさし込んでから固定します。

2



2 図、⑬のシャッターダイヤルは、60×を三角指標に合わせます。

3 図、ホットシュー用でない旧型のストロボの場合は、Xと書いた⑤0についている黒いキャップをはずし、Xターミナルにストロボのシンクロコードを差し込みます。〔となりにFPと書いたターミナルがありますから間違えないで下さい〕

ストロボは1000～125〔 $\frac{1}{1000}$ 秒～ $\frac{1}{125}$ 秒〕で用いると、画面の一部にしかストロボの光が入りませんから失敗します。60〔 $\frac{1}{60}$ 秒〕より遅い

3



シャッターならば、どの速度でもよいのですが、いろいろな理由で60が最も適しています。

シンクロターミナルには黒いキャップがついていますのは、ホットシューにつけたストロボが発光する瞬間には、ターミナルにも電流が流れるからです。ただし、ターミナルは回りの環より1ミリも低くなっていて普通に指をふれたのではさわりませんが、指が濡れているような場合、特異体質の方が万一ふれた場合、若干感電するので、安全保障のため特にかぶせてあるものです。

ストロボの使い方については、ストロボの説明書をよく読んで下さい。

セルフタイマーを使うには



セルフタイマーは、自分も入れて撮影する時に使います。

4図、カメラを三脚につけ、フィルム巻上げ後、⑤①のセルフタイマーレバーを、手を放しても止まる位置まで、前から見て反時計方向に回します。次に⑤②のセルフタイマー作動レバーを矢印の方向に回すと、約5秒～13秒後にシャッターがきれます。

一旦セルフタイマーレバーをセットしても、中止したい時はレバーを元の位置に戻すことができます。〔後でフィルムが入ってない時



に、セルフタイマー作動レバーを作動させておいて下さい〕

5図、セルフタイマーは三脚を用いなくても、アクセサリーのレフコンバーター、またはレフコンバーターII型〔別売り〕を用いれば、上からファインダーをのぞけますから、丈夫な台の上に置いても使えます。ただし、台そのものが写らないよう台の端近くにカメラを置かねばなりません。カメラの向きは、ポディー、またはレンズの下に、固い懐中品〔ライター、マッチ箱、名刺、鍵など〕を置いて調節することができます。

KM

ハイクラスコース

いよいよKMの特長
すべての機能を
使いこなすコースです。

カメラ・ライフを充分に
お楽しみいただくため
ぜひお読み下さい。

シャッター速度を先に決めるのが普通

KMは定点式露出計といたしまして、露出計メーター指針が動いて、しかも5ページ5図の指針が中央にある限り、どんな絞りとシャッター速度の組合わせでも、理論上の適正露出が求められます〔電池が入っていない時、電池が消耗している時は、指針が中央に固定していますから混同しないで下さい〕。

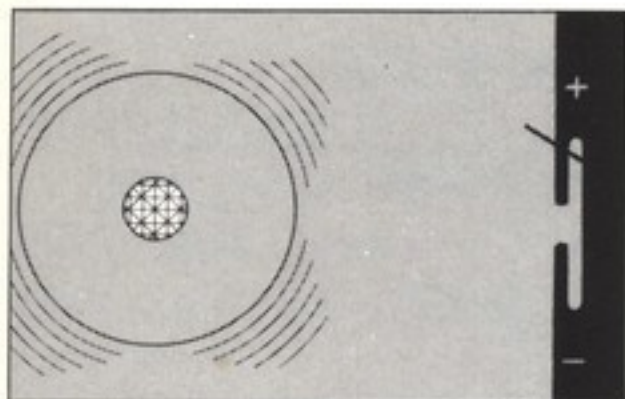
実際的手段としては、シャッター速度を先に決めてから、絞り環を回して、指針が中央に来るようにしてもよいし、絞りを先に決めてから、シャッターダイヤルを回して指針が中央に来るようにしてもよいのです。

しかし、操作上、絞りを先に決めてシャッターダイヤルを回すのは、やややりにくいのと、シャッターダイヤルの各速度の間は、必ずしも中間速度ではありませんから、細かい調節は絞り環でしなければならないことがあります。

それに比べて、シャッター速度を先に決めれば、絞り環を左手で回すのは容易で、しかも細かい調節が最初からできます。

測光範囲

1



ASA 100、50ミリ・F 2 レンズで、EV 3 [F 2、 $\frac{1}{2}$ 秒] ~ 18 [F 16、 $\frac{1}{500}$ 秒、または F 22、 $\frac{1}{500}$ 秒] で、測光範囲は、2 図の通りです。 の測光範囲外になると、1 図のように指針は上側に振り切れて止まるのでわかります。

ASAが変化すると、測光範囲も変わります。例えば、ASA 25の場合は、3 図の の部分が測光範囲外になります。ASA 64の場合は、 $\frac{1}{1000}$ 秒が測光範囲外になります。

ASA 400の場合は、3 図の の部分が測光範囲外になります。

2

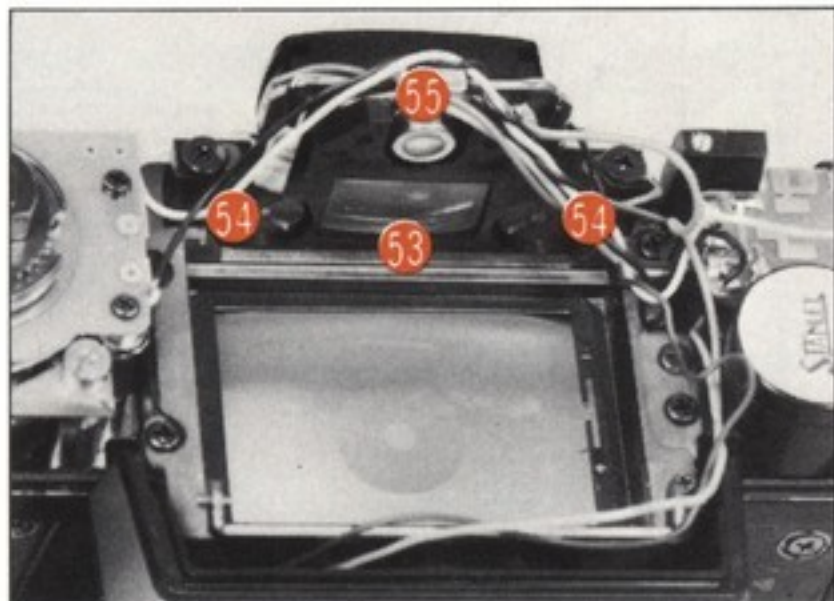
F	シャッター速度										
	1秒	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{1000}$
2											
2.8											
4				測 光 範 囲							
5.6											
8											
11											
16											
22											

3

F	シャッター速度										
	1秒	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{1000}$
2											
2.8											
4											
5.6				測 光 範 囲							
8											
11											
16											
22											

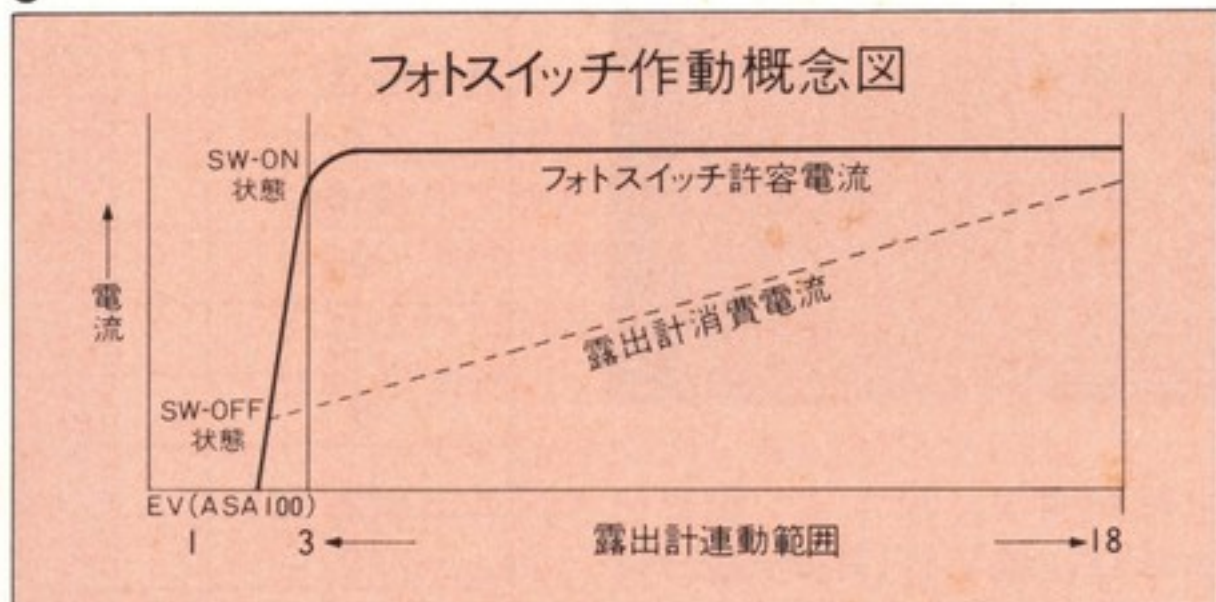
フотスイッチ

4



4 図、KMの外観にはスイッチがありません。⑤③の接眼レンズの内側には、⑤④の2個のCdS〔受光体〕がありますが、その上側にもう一つ⑤⑤のCdSがあって、5 図のようにASA100、EV3以上の光を受けると、電流が流れ、EV2以下ですと、電流が流れません。つまり微少の光の有無がスイッチになっているので、フотスイッチ〔光スイッチ〕と言います。ですからKMにレンズキャップをし、ケースに入れておくと、電流を消費しません。携帯時の電流消費量も極めて少ないので、外観にスイッチを設けなくてもよい、という画期的なものです。

5



フオトスイッチは、昭和48年7月に発売されたペンタックスSPFに採用されて以来、多数のご愛用者によって使用されて来ましたが、電池の寿命が短くて困るというクレームはありませんから、安心してご使用下さい。

バッテリーチェック

KMには外観上のバッテリーチェックボタンはありませんが、次の方法でバッテリーチェックができます。

先ずASA感度目盛を100にし、シャッターダイヤルを1000に合わせます。次にファインダー窓をのぞきながら、シャッターダイヤルを反時計方向に回してBにした場合、指針が上側に速く振りきれて止まれば、電池の寿命

電池の性能

が充分にある証拠です。電池が消耗して来ると、指針が上まで振り切れなくなりますから、新しい電池と交換して下さい。新しい電池を使用しないで保存する場合の寿命は約2年間です。

Bの機能

なお、Bはバルブの略称で、シャッターボタンを押している間は、シャッターが開き放しになり、シャッターボタンから手を放すとシャッターが閉じます。

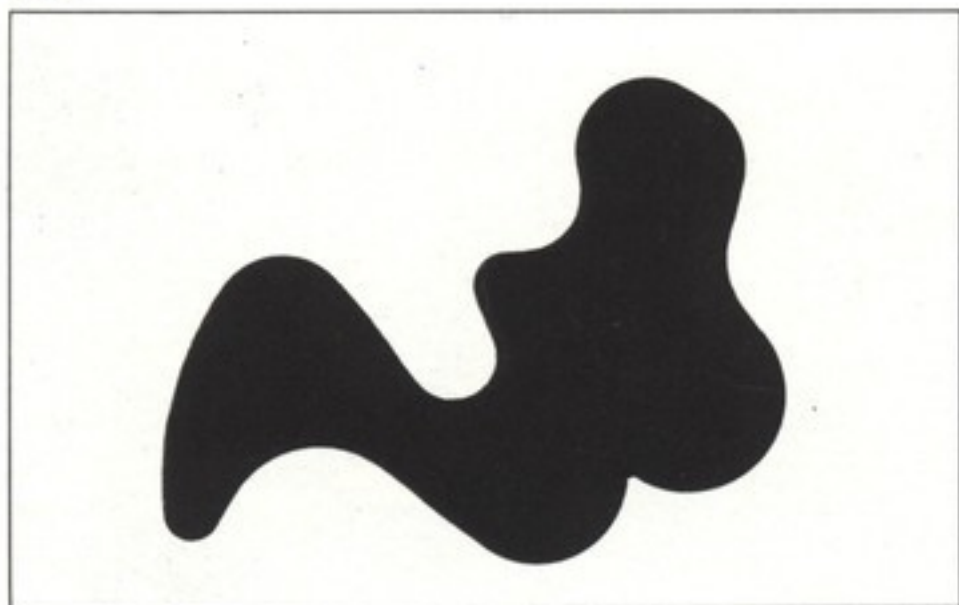
三脚につけて、1秒以上の長時間露出に使用します。

電池消費時のシャッター

KMの電池は露出計の電源としてのみ使っていますから、電池が消耗して来ると指針の動きがにぶくなります。シャッターはメカニカルシャッター〔機械シャッター〕なので、異状なく作動します。露出を測ることはできませんから、経験によって適当な絞りとシャッター速度の組合わせて撮影します。

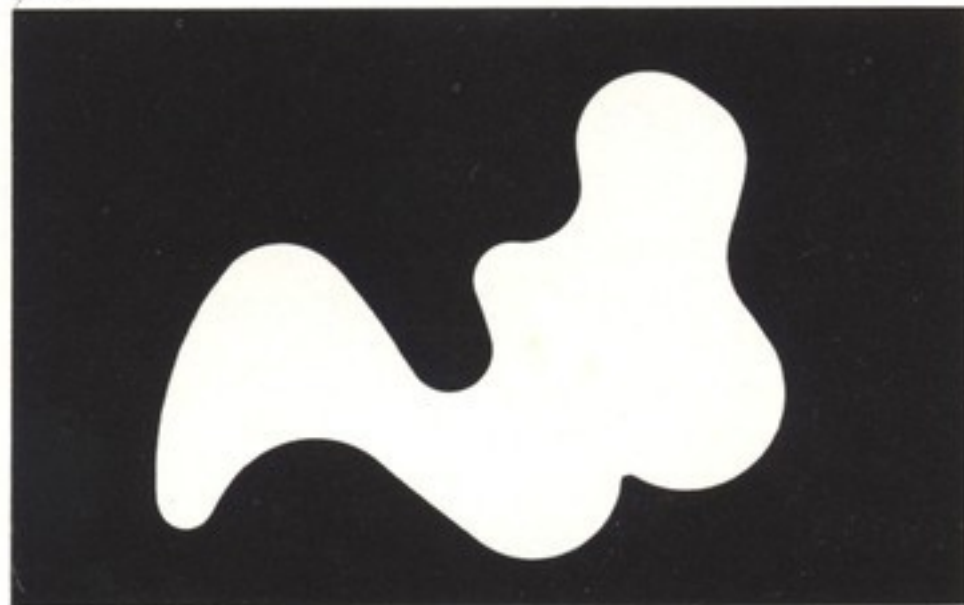


1-1



1 図、露出計が正確ならば、どんな被写体でも適正露出がえられる、と思う方がいますが、1 図・1、2を見比べると、よくおわかりのように、この明部と暗部の明るさが同じである以上、面積の割合がどう変わっても適正露出に変わりはありません。しかし露出計で計れば、明部と暗部の面積の割合が違うため、大いに測光値が変わって来ます。1 図・1・2の場合、KMの正確な露出計で計ると2倍も違います。

1-2



また作者として、特にハイキー〔明るい調子〕な写真を作りたい、ローキー〔暗い調子〕な写真を作りたい、という場合も、適正露出でとらないでわざとオーバーな露出、またはアンダーな露出にしなければなりません。

2



2図、曇天や白っぽい雲が多い晴天の場合、空が画面の中で多くの面積を占める時。曇天の場合は空と地上の物の明るさが大いに違います。地上の物に適正露出を与えるためには、絞りを1段階、ないし2段階あけるか、シャッター速度を1段階、ないし2段階遅くします。1段階とは例えば、絞りを8から5.6にすること、シャッター速度を $\frac{1}{250}$ 秒から $\frac{1}{125}$ 秒にすること。

3



3図、晴天の逆光の空が入っている場合、逆光の空は順光の空より明るいのです。地上のものは太陽の影の中に入っているものが多く、太陽が逆光で当たっている部分は順光が当たる場合より明るいから、逆光の場合は、露出不足になりがちです。1段階、ないし2段階、露出を多くします。

太陽が画面の中に入っていて、しかも地上のものも露出不足にしたくない場合は、2段階、ないし4段階、露出を多くします。

4図、白い紙に黒い文字がある印刷物の複写。まっ白の紙の反射率は最高で90%。一般に適正露出は18%反射率〔灰色〕の物を元と同じ灰色に再現するようになっています。2段階露出を多くします。

4

KMは定点式露出計といまして、露出メーター指針が動いて、しかも5ページの指針が中央にある限り、どんな絞り、シャッター速度の組み合わせでも、理論上の適正露出が求められます〔電池が入っていない時電池が消耗している時は、指針が中央に戻っていますから混同しないで下さい〕。

実際の手段としては、シャッター速度を先に決めてから、絞り環を回して、指針が中央に来るようにしてもよいし、絞りを先に決めるから、シャッターダイヤルを回して指針中央に来るようにしてもよいのです。

しかし、操作上、絞りを先に決めてシャッターダイヤルを回すのは、やややりくじと、シャッターダイヤルの各速度の中間は必ずしも中間速度ではありませんから、正しい露出は絞り環でしなければならないことがあります。

それに比べて、シャッター速度を先に決めれば、絞り環を左手で回すのは容易で、しかも細かい露出が最初からできます。

5



5図、晴天の順光雪景の中の人物。白く輝く雪に露出を合わせれば、人物に対しては露出不足になるのは当然です。1段階露出を多くします。

6図、黒バックの舞台〔黒くなくても光が当たっていないので黒く写る〕で、スポットライトが当たっている人物。1段階、ないし2段階露出を少なくします。

7図、常緑樹、ないし色の濃い葉。黒土、樹の幹などが被写体の大部分をしめている場合。これらのものは反射率が低いので、露出計で計った通りに露出するとオーバーになります。1段階露出を少なくします。要するにファインダーをのぞいて構図を決めたら、明部と暗

6



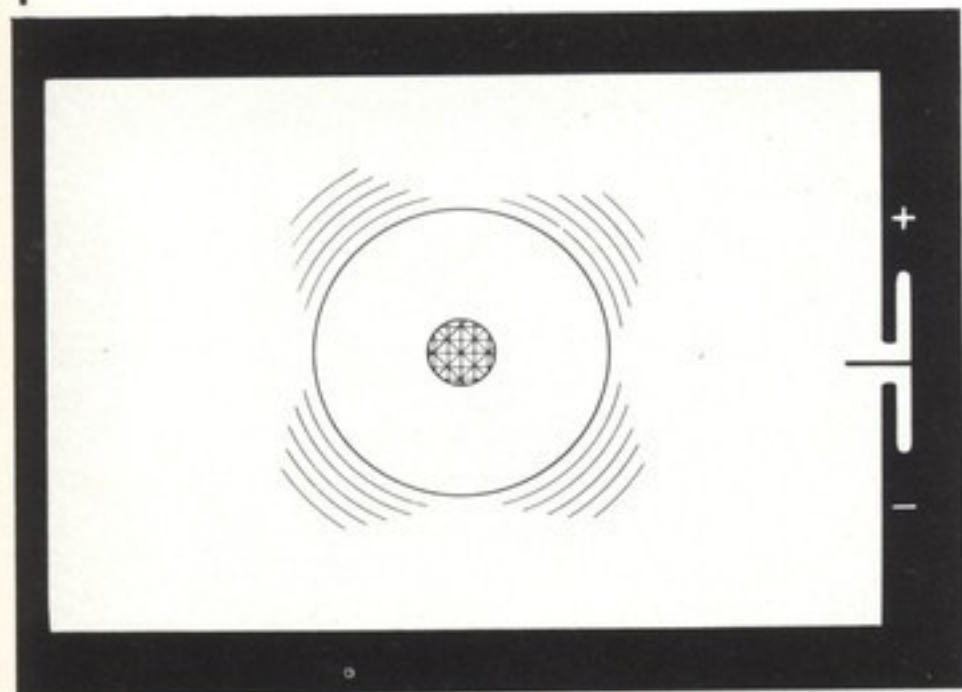
7



部の割合を見、どの部分を最適正露出にしたいか？ ということを考え、調節を要する場合には調節するコツを覚えて下さい。

ピント合わせと視度調整

1



1図のファインダー中央の小円は、クロスマイクロプリズム式になっています。

2図、クロスマイクロプリズム式は、ピントが合っている時は、ただの明るいはっきりした像ですが、ピントが合っていない時は、像がぎざぎざにちらつきます。

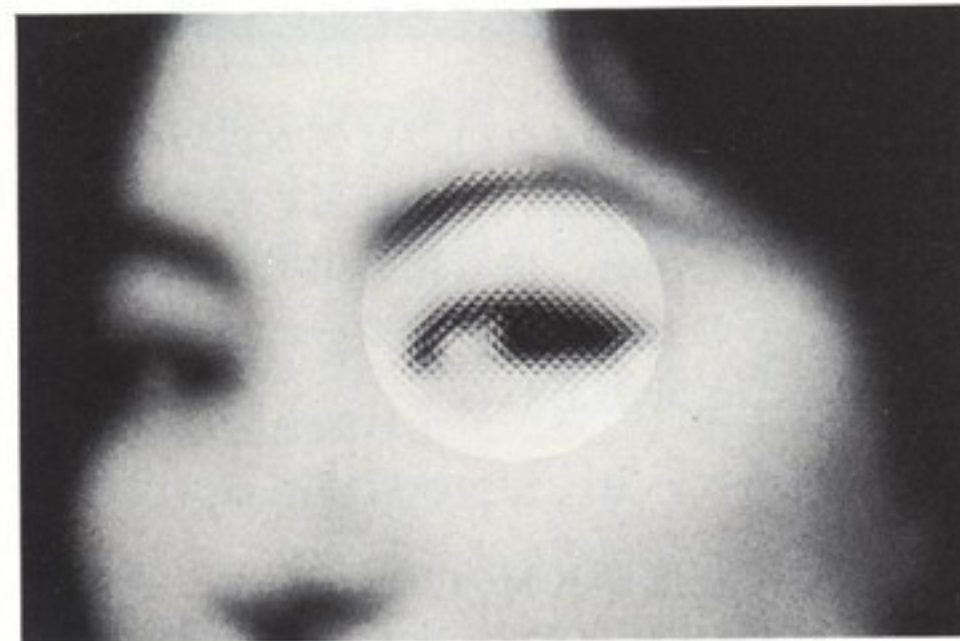
クロスマイクロプリズム式は、F4.5を含んでそれより明るいレンズ用に作られていて、ファインダーをのぞく目を光軸上〔接眼レンズの中心線上〕に正しく置かないと影が出て見にくくなります。

2

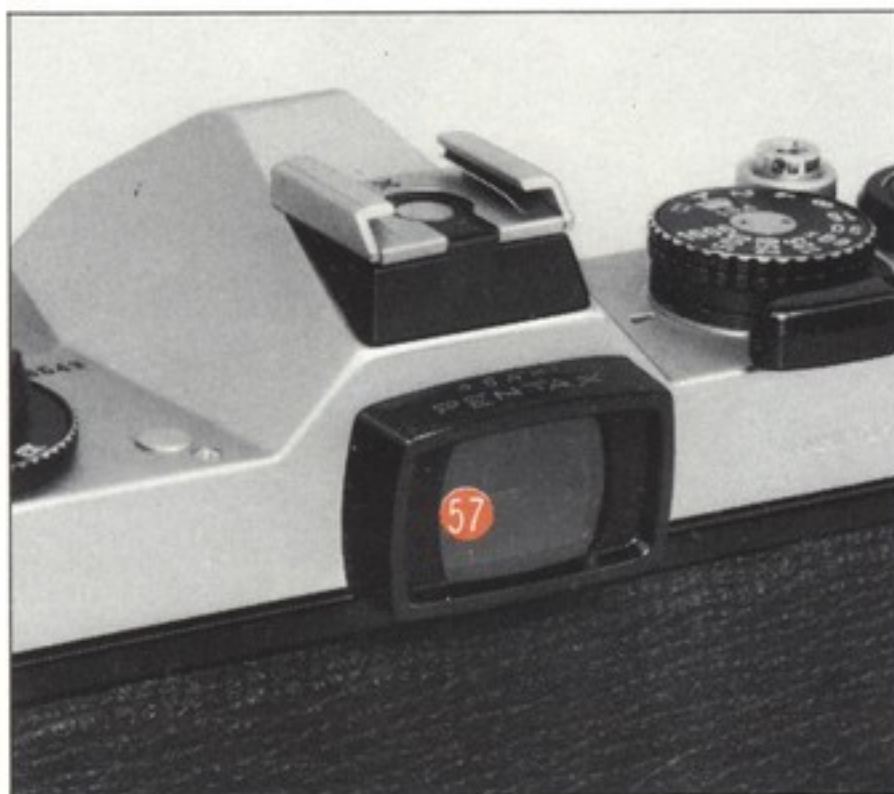
ピントが合っている時



合っていない時



3



KMはクロスマイクロプリズム以外のどの部分でもピントを合わせられるのが特長です。構図を決めた場合、被写体の中でピントを合わせたいものがどこにあってもピントが合わせられることをお忘れなく。

3図、目の視度がKMのファインダー視度に合っていないと、ピント合わせがしにくくなります。

KMのファインダー視度は、 -1.0 ディオプリー[D]ですから、被写体が遠くても近く

4



ても、像はいつでも約1メートルの距離にできるわけです。カメラを使用する時の状態〔めがねの有無、めがねの種類〕で、**4図**のように約1メートルの距離にあるものが人並みに読める方ならば、ピント合わせもしやすいのです。そうでない方は視度調整をしなければなりませんから、**57**の視度調整レンズをお求めになり、ファインダー窓のアクセサリ取っつけ溝にさし込みます。 $-5.0D$ から $+3.0D$ まで、 $1D$ おきにそろっています。くわしくは同封の「アクセサリ」のカタログをごらん下さい。

絞り

1

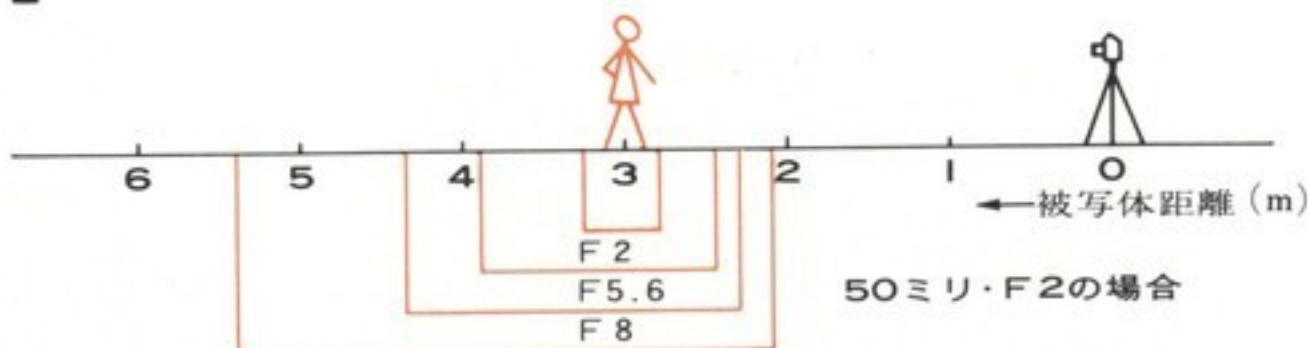


1 図、自動絞りのレンズは、ふだん絞りが開放絞りになっているので外からは絞り羽根が見えません。カメラを正面から見て、①9の絞りを例えば5.6ぐらいにして、②0のシャッターボタンを押してみますと、自動絞りの羽根が瞬間的に開閉するのがわかります。

このように絞りはレンズを通過してフィルムに届く光の量を調節する役目と、もう一つは次ページの被写界深度の調節という役目を持っています。

光量を調節する必要があることは、例えば絞りを2にして晴天の屋外でカメラを向けますと、シャッター速度を $\frac{1}{1000}$ 秒にしても、ファインダー内の指針は中央より上にあります。

2



1	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	32
	1.2	1.7	2.4	3.4	4.8	6.7	9.5	13.5	19	26

少なくとも絞りを2.8か4にしないと、指針が中央に来ないことでわかります。

絞りの数値はFナンバー、またはF値といい、上表の上段の系列で、1段階ごとにFの数が多くなるほど、レンズを通る光量は約半分になります。下段はその中間絞りのFナンバーです。

S MCペンタックスレンズは、上段の系列の場合、開放絞りと次の絞り、最小絞りとその前の絞りの間以外には、すべて中間絞りのクリックストップが入っていて使いやすくてきています。

3

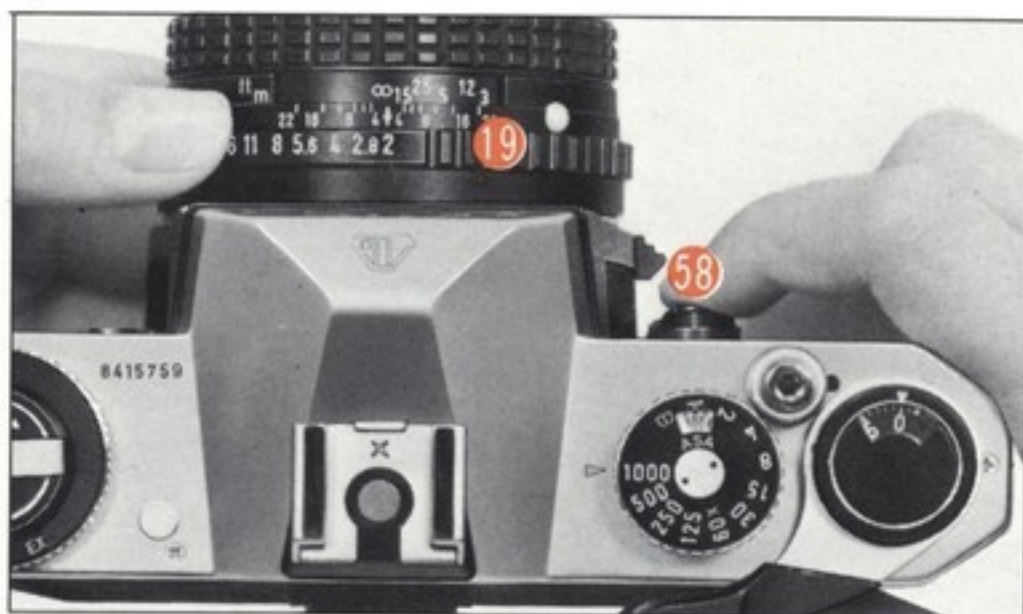


被写界深度と被写界深度目盛

2図、被写界深度は、或る距離の被写体にピントを合わせた場合、その前後、ピントが合う範囲を言い、次ページの5図・1、2、3のように絞れば絞るほど深くなります。バック〔背景〕をぼかしたい時は、絞りをなるべくあけ〔Fナンバーが小さい〕、バックまでピントを合わせたい時は小絞り〔Fナンバーが大きい〕にします。

3図、SMCペンタックスレンズには、ズームレンズ以外はすべて被写界深度を示す被写界深度目盛があって、この50ミリレンズの場合、3 mにピントを合わせると、F8で約2.3メートルから、約4.5メートルまでピントが

4



合うことを示しています。〔4と8の間の線は5.6、8と16の間の線は11、F2の場合は4の半分です〕

手動絞り

4図、被写界深度は、ファインダー窓をのぞいて、ピントを合わせてから、**58**の手動絞りボタンを押しながら、**19**の絞り環を回すと、ファインダーの明るさが変化すると共に、被写界深度も変化することがわかります。

手動絞りボタンを押すと、ファインダー内の指針は下側に動きますが、これは正しい表示ではありませんから、手動絞りボタンを押しながら、露出計の調節をしてはいけません。

5-1

50ミリ・F2



5-2

50ミリ・F5.6



5-3

50ミリ・F16



レンズ着脱

1



2



3



レンズを交換したり、オート接写リングK、接写リングK、ヘリコイド接写リングK、オートベローズK、ベローズユニットKなどを、レンズとボディの間にはさむためには、レンズを着脱しなくてはなりません。

レンズをはずすには

1図、ボディを左手で持ち、右手の親指で⑥のレンズロックレバーをボディ側に押しながら、レンズをにぎって、反時計方向に65度回転すると、容易にレンズをはずせます。

2図、別法として、ボディを下から持った左手の中指、または人差し指で、⑥のレンズロックレバーを押しながら、右手は1図と同じようににぎって回してもはずせます。

3図、はずしたレンズを置く時は、前面を下にして置いて下さい。

レンズを取付けるには

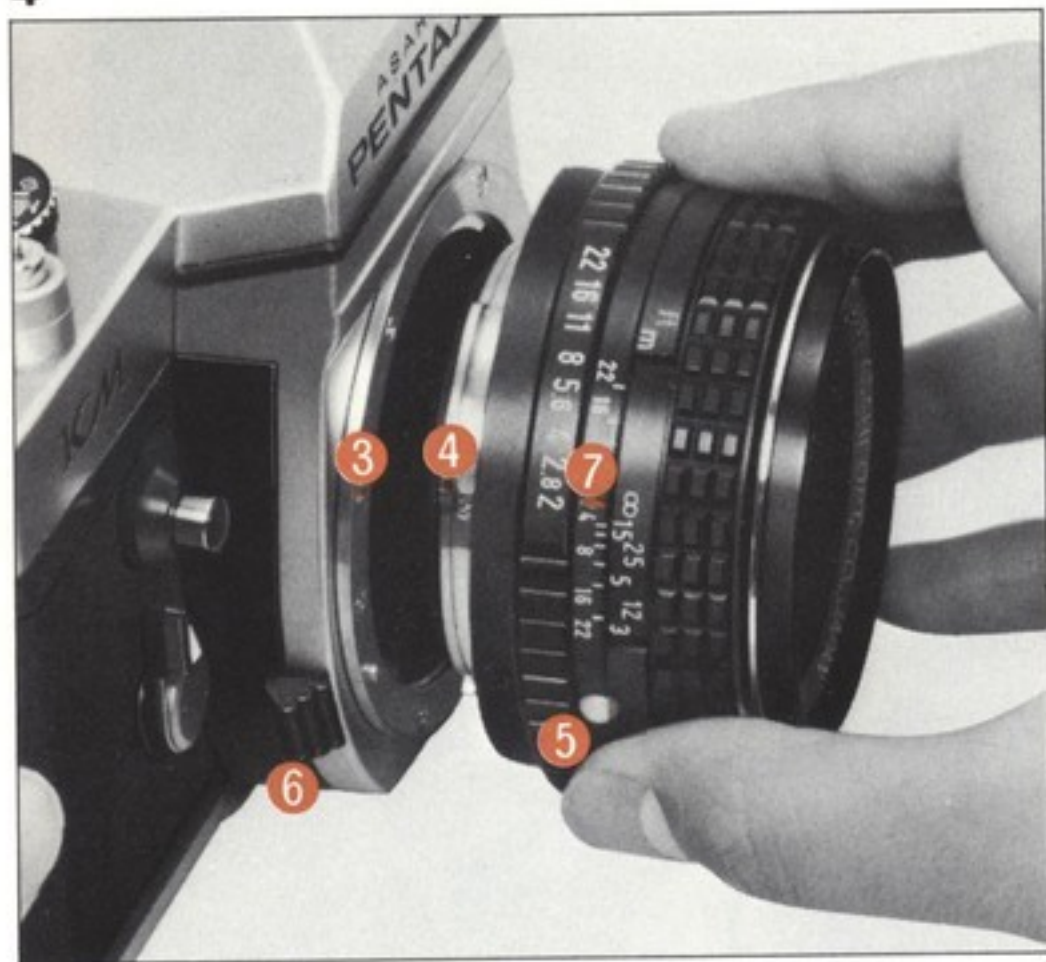
4図、ボディーマウントにある③の赤点と、レンズマウントにある④の赤点を一致させてはめ込んでから、時計方向に65度回すと、カチッと音がしてロックされます。

④のレンズマウントにある赤点は、⑦の◆指標と直線上にありますから、③のボディーマウントにある赤点と⑦の指標を合わせてもかまいません。

またはレンズ側にある⑤の白プラスチックの半球を⑥のレンズロックレバーに合わせてもはめ込めます。

このように、3通りもある合いマークの内、お好みの方法を選べるのが、KMの特長です。

暗くて赤点や指標が見えない時は、⑤の白半球を手ざわりで左斜めやや下に持って、ボディ側にはめこむこともできます。

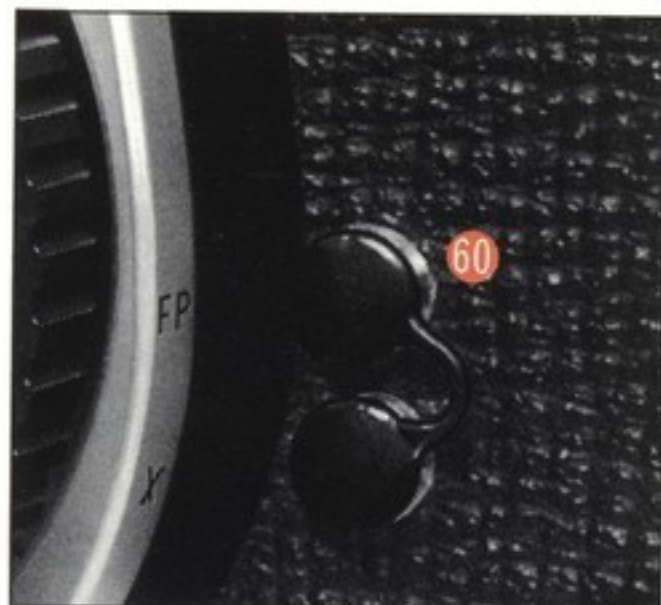


レンズ着脱の注意

KMはフィルムが入っていても、ゴム布幕シャッターでおおっていますから、いつでもレンズ着脱ができます。ただし屋外で太陽の直射光がマウントを通り、シャッター幕に直接当たるようにすると、反射光がフィルムに達することがありますから、直射日光は避けて下さい。

閃光電球を使うには

1-A



シャッター ターミナル	速度	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15	1/8	1/4	1/2	1	B
X													ストロボ
FP		FP級閃光電球											
X													FP級、M級、MF級閃光電球

1-B



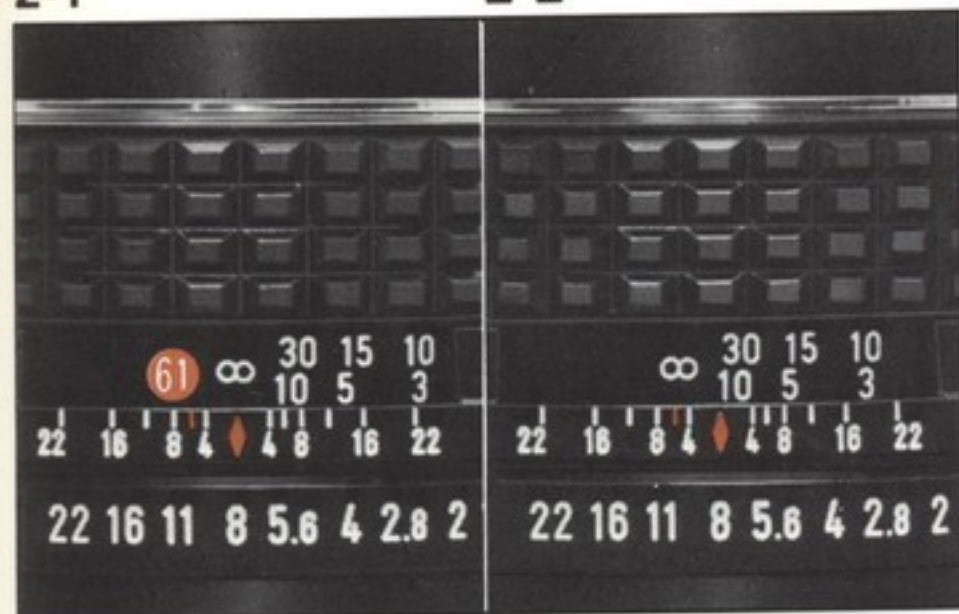
1 図、市販のシンクロ発光器〔フラッシュガン〕の内、クリップオンタイプのものは、④9のホットシューに、ブラケットタイプのものは三脚ねじ穴にとりつけます。FP級閃光電球〔No.6 Bなど〕を用いる時は、いずれの場合も発光器のシンクロコードを、1 図・A、Bの⑥0のFPのキャップをはずし、FPターミナルに差し込みます。〔Xと間違えないで下さい〕

閃光電球にはFP級とM級とMF級の3種があります。ストロボや閃光電球が、全画面に露出むらなく使えるシャッター速度とターミナルの種類との関係は、カメラによって異なり、KMでは上の表の色付きの部分だけですから、特にご注意下さい。

赤外線指標

2-1

2-2



赤外線写真は、赤外線フィルムと、R2、またはO2フィルターを用いれば誰でも撮影できます。

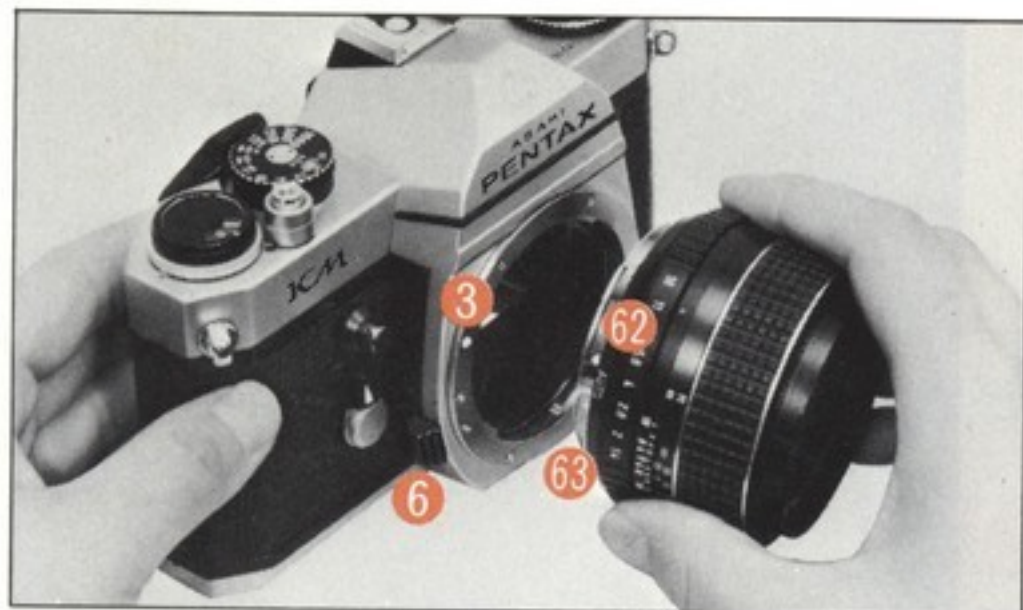
2図、赤外線は波長が長いから、焦点距離が若干伸びますから、目でピントを合わせたまま撮影すると、やや後ピン〔ピントを合わせた位置より遠くにピントが合うこと〕になります。そのためズームレンズを除くすべてのSMCペンタックスレンズには、被写界深度目盛の中に赤線で赤外線指標を示してあります。2図・1のようにピントを合わせた後、⑥の距離目盛〔∞とは限りません〕を見て、それを2図・2のようにピントリングを少し繰り出して赤外線指標に合わせればよいのです。



赤外線は赤外線フィルム以外は感じません。この写真は暗室で、SSフィルムを現像タンクのリールに巻く所を、ストロボに赤外線透過フィルターをかけて撮影しました。このSSフィルムは現像しても、全然かぶっていませんでした。

従来のタクマーレンズを使うには

1



従来のタクマーねじマウントレンズは、マウントアダプターKでKMに装着できますが、条件があります。

1. ∞ の距離目盛はすべて合致します。〔無限大までの撮影ができます〕
2. 自動絞りは作動しません。〔方式が異なるため〕
3. 開放測光式レンズは絞り込み測光になります。
4. プリセット絞り、クリックストップ絞り式レンズは、従来と全く同じように使用できます。

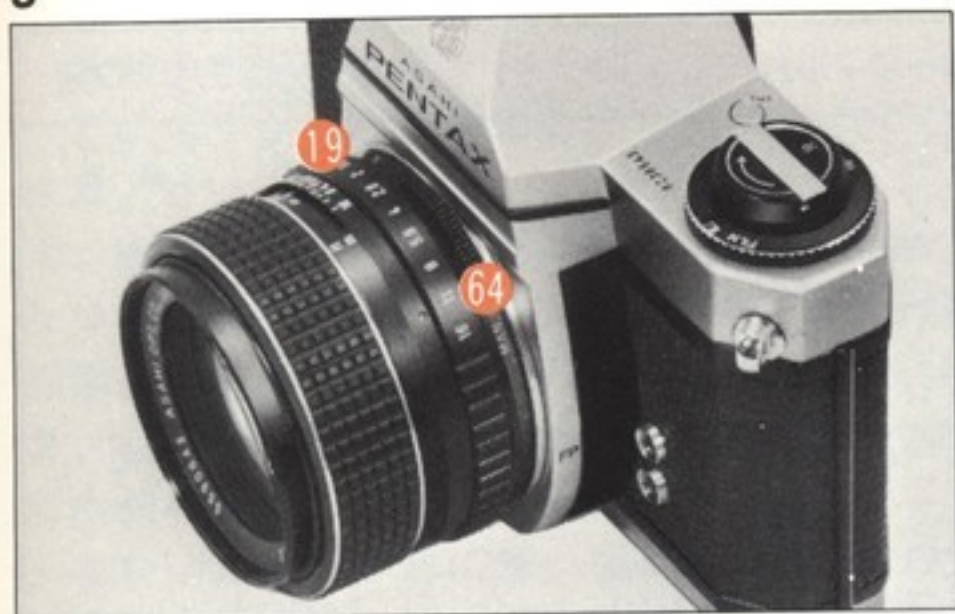
2



マウントアダプターKの使い方

1 図、タクマーねじマウントレンズを先ずマウントアダプターKにねじ込みます。アダプターの⑥2の赤点をボディの③の赤点に合わせ、⑥3のばね板がボディマウントの爪に当たらないようにしてはめ込み、時計方向に65度回すとロックされます。ただし、このロックは、ボディの⑥のロックレバーと関係がありませんから、ねじマウントのレンズを反時計方向に回すとレンズだけがはずれ、マウントアダプターKはボディマウントに残ります。

3



2図、マウントアダプターKをとりはずす時は、⑥3のばね板に親指の爪か、ボールペンのようなものの先端をかけて、中心に向かって押しながら反時計方向に65度回して引出します。

3図、従来のスーパータクマー、SMCタクマーレンズの内、自動絞り方式のレンズは、①9の絞り環をおよそ希望の絞りにして、⑥4の自動絞り解除レバーをAUTO[A]にしてピントを合わせてから、MAN.[M]に切りかえると、KMの露出計を絞り込み測光で使えます。



フィルムの種類

カラーフィルムにはネガカラーとリバーサルカラーがあり、前者はカラープリントに用いられ、後者はカラーズライド〔映写用〕に用いられます。富士写真フィルムとコダックの製品では、「……カラー」はネガカラー、「……クローム」はリバーサルカラーと名称で区別しています。

ネガカラーフィルムと黒白フィルムは、一般にASA 100級のものが用いられますが、より高感度のASA 400級のフィルムや反対により微粒子、高解像力のネオパンF、パナトミックXも用途によって使い分けられています。ストロボを使わないで室内のスナップをしたり、高速のシャッター速度〔 $\frac{1}{1000}$ 秒、 $\frac{1}{500}$ 秒〕で速い動体を撮影するには、ASA 400級のフィルムが適しています。

一般にカラーフィルム、黒白フィルムを通じて、粒状性、解像力と感光度は相反する性質を持っています。

特殊フィルムは、文書、印刷物〔字のみ〕の複写にミニコピー、コニマイクロがありますが、写真、絵画〔印刷物を含めて〕の複写にはネオパンF、というふうにフィルムの特性に合わせて使い分けすることが大切なコツです。

カラーフィルム		ASA 感光度	タイプ別
ネガカラー	コダカラーII	100	デイライト (日光)
	フジカラーFII	100	"
	さくらカラーII	100	"
	フジカラーFII400	400	"
	さくらカラー400	400	"
	コダカラー400	400	"
リバーサル	コダクローム25	25	デイライト
	エクタクローム64	64	"
	コダクローム64	64	"
	フジクロームR100	100	"
	さくらカラーR100	100	"
	エクタクローム160	125	タンクステン (電灯光)
	エクタクローム200	200	デイライト
黒白フィルム	ASA 感光度	特殊フィルム	ASA 感光度
ネオパンF	32	フジ・ポジティブ	-
パナトミックX	32	ミニコピー	-
ネオパンSS	100	コニマイクロ	-
コニパンSS	100	ハイコントラストコピー	64
プラスXパン	125	さくら赤外750	-
コニパンSSS	200	コダック・ハイスピード赤外	-
トライXパン	400	コダック赤外カラー	-
ネオパン400	400		

KMの耐温度性

KMの耐温度性は、約+50°C～-20°Cになっていますが、耐寒性については次の点にご注意下さい。

1. 油が汚れて来ると耐寒性はだんだん悪くなります。耐寒性を十分に保つためには、分解掃除をし、新しい油を入れる必要があります。
2. 温度の急激な変化があると、カメラ内部に水滴を生じ、サビの原因になります。

温かいカメラを急に寒い屋外に持ち出した場合は、冬の窓と同じで内面に水滴を生じ、寒さがひどいとその水滴が氷ってしまいます。

冷たいカメラを暖かい室内に持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。

このようにカメラの温度を急に変化させることは禁物で、10°Cの変化を少なくとも30分以上かけてやるようにしたいものです。例えば、寒い屋外から温かいへやに入った時、温かいへやから寒い屋外に出た時、いずれの場合も、バックやケースから急に出さないように注意します。

二重〔多重〕露出のしかた

KMでは、フィルムの位置が全くずれない完全な二重〔多重〕露出はできませんが、多少ずれてよいのならば、次の方法でできます。

1. 最初の露出はふつうにシャッターをきります。
2. パトローネの中のフィルムのゆるみをとるため、巻戻しクランクを矢印の方向に止まるまで巻き、左手の親指で戻らないように押さえるか、多重露出の場合はテープで留めます。
3. このまま左手の小指、又は他の指で巻戻しボタンを押し込んだまま、巻上げレバーを巻上げると、フィルムは送られずにシャッターだけセットできるわけです。三つの動作を同時にしなければなりません。
4. 巻上げが終わったら、巻戻しクランクや巻戻しボタンから手を放しても、シャッターをきれば二重露出ができます。三重以上の場合は最後の露出の準備ができるまで、手を放してはいけないわけです。
5. 二重〔多重〕露出が終わった後は、レンズキャップをし、次の巻上げをして空写しを1枚します。こうしないと次の露出が二重〔多重〕露出の画面と少し重なることがあるからです。

カメラの取扱い上の注意

1



2



3



① レンズやファインダー窓の接眼レンズ、フィルターは清潔に

ホコリやごみはブローで吹飛ばしてから、レンズ刷毛で払います〔1図〕。みだりにふくと、固いごみでかえってきずをつけます。指紋のようなものは、ティッシュペーパーか、きれいな柔らかい布〔よく洗った木綿は案外よいので、予備の白木綿ハンケチをズボンの予備ポケットに入れておくことをおすすめします〕ですみずみまで、ていねいにふきます。息をふきかける方法はうまくすると有効ですが、ふき残りがないように注意して下さい。特定のレンズクリーナーも有効です。シリコンクロスは、ボディをふくもので、コーティングをしたレンズやフィルターをふいてはいけません。

一方、レンズのごみや汚れを必要以上に神経質に考えるのはご損です。数個の小さなごみはあっても写真の写りに影響しません。

レンズをはずして、明るい方に向けてすかして見て、先ず、くもり、汚れを見、次にごみを見て下さい。

② ミラーやシャッター幕には手をふれない

3図のミラーにつく小さなごみや汚れは、ファインダーでは見えないのですから、あまり気にする必要はありません。

③ カメラにショックを与えない

カメラを落したり、固い物にぶつけると、変形までしなくても、内部機構に悪い影響を与えることがあります。

④カメラは防水カメラではない

ちょっと見には、そう簡単に水が入りそうにもありませんが、わずかなすき間から水は入りうるので、雨中の撮影や特に海水のしぶきにはご注意ください。消音ケース〔別売り〕はかなり防水にも効果があります。極端な水没品は修理不能になります。その代り、同一機種の場合は、標準価格の72%で新品と交換致します。〔サービスセンターに限り取扱います〕

⑤カメラの保存場所

高温多湿でない場所、ごみの少ない場所がよいので、具体的には空気の流通がよい場所がよいのです。タンスや押入れの奥深くしまい込むのは、湿気のためにも良くありません。

⑥三脚ねじの長さについて

三脚ねじ穴の長さは、5.5ミリ〔JIS〕になっています。従って4図の三脚側のねじの長いものを無理にねじ込むと、カメラの三脚ねじ穴の底を押して故障の原因になります。

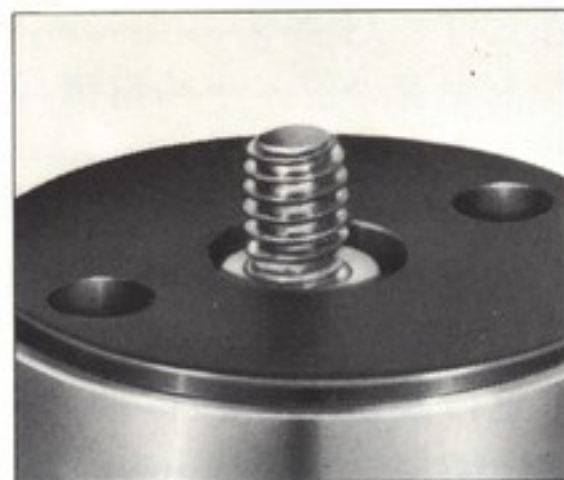
⑦みだりに分解や注油をしない。修理は当社で

KMは独自の機構を持った高級カメラです。万一故障の際には、確実な修理のために、当社で修理するようご指定下さい。

⑧ナンバー記録のおすすめ

旅行中に紛失したり、盗難に会った場合のために、携行の手帖などに5図のカメラ名、ボディ番号、6図のレンズ名、レンズ番号を記録されることをおすすめします。届出はなるべく早く警察署へ。〔当社ではご愛用者の愛用者カードによって、全国各地の警察署からのお問い合わせに答えております〕

4



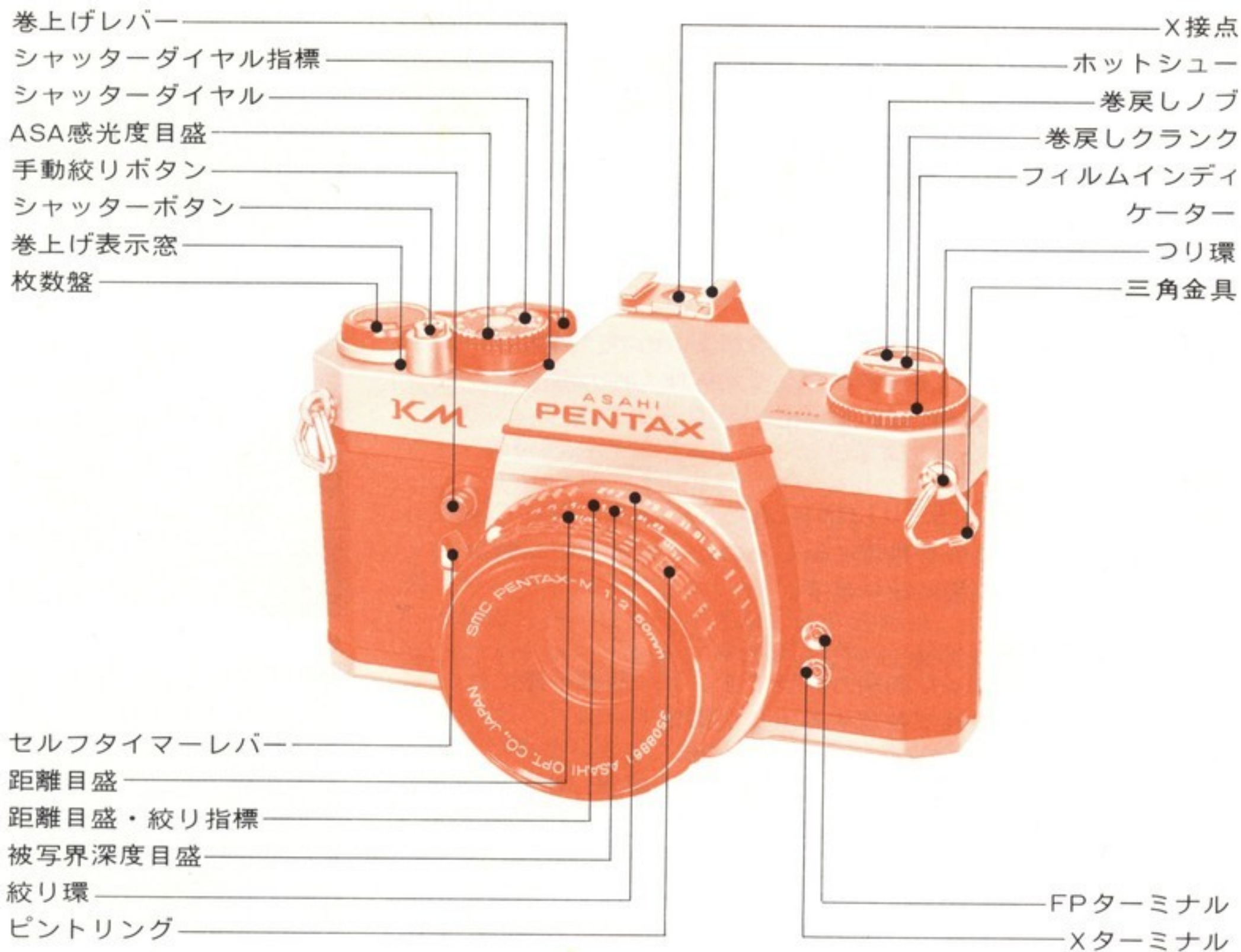
5

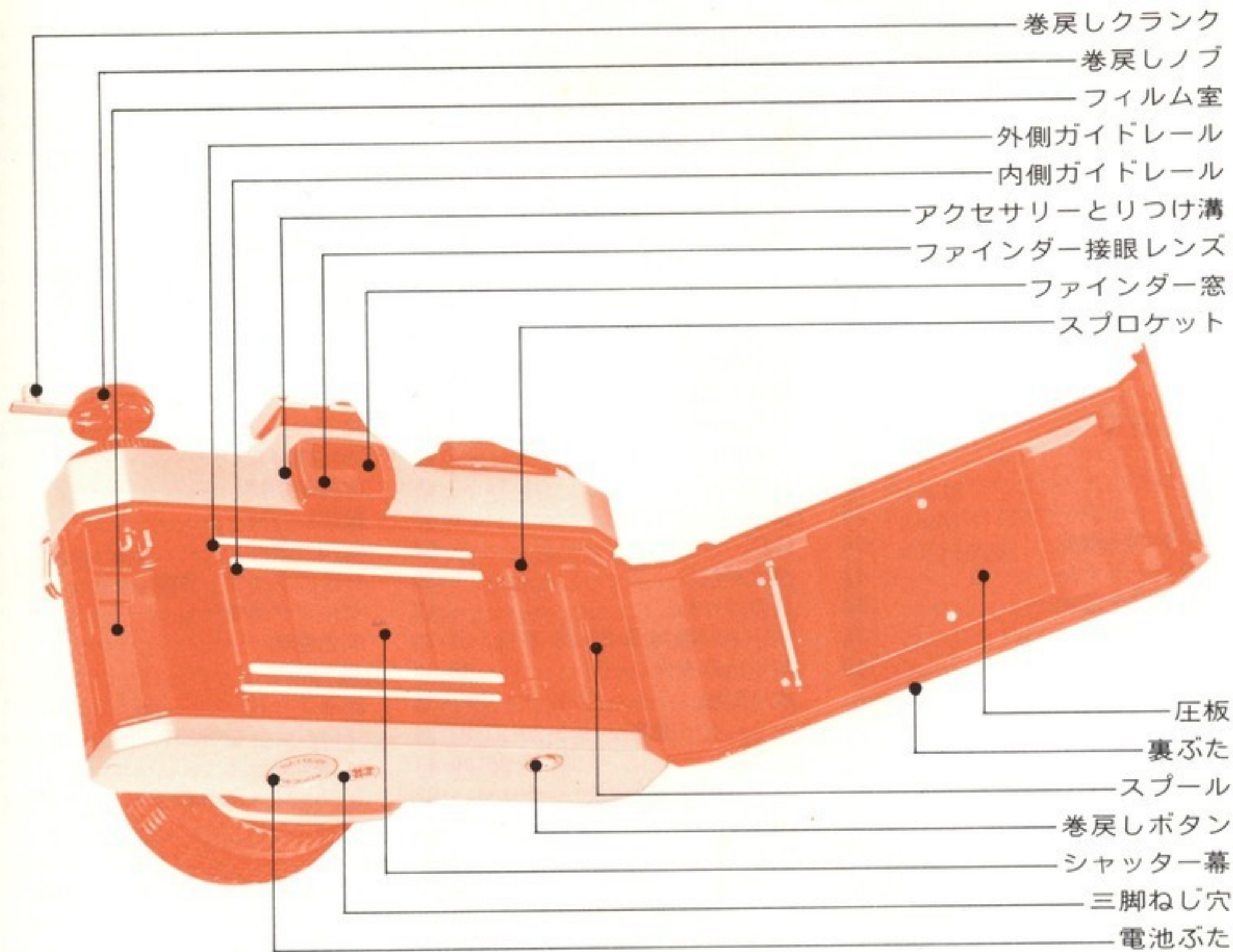


6



部分名称





【ア】

アクセサリ・・・21・29・30・34・42
 アクセサリ取っつけ溝・・・30・45
 ASA感光度・・・10・23・40
 ASA感光度目盛・・・10・24
 圧板・・・45
 後ピン・・・37
 暗部・・・26
 EV・・・23・24
 裏ぶた・・・6・7・16・45
 SMCタクマーレンズ・・・38・39
 SMCペンタックスレンズ・・・37
 Xキャップ・・・20
 Xターミナル・・・20・36・44
 F値・・・31
 Fナンバー・・・31・32
 FPキャップ・・・36
 FP級閃光電球・・・36
 FPターミナル・・・36・44
 MF級閃光電球・・・36
 M級閃光電球・・・36
 AUTO・・・39

【カ】

開放絞り・・・5・29・31
 開放測光・・・38
 肩ひも・・・12・13
 カメラぶれ・・・4・16・17
 カラーズライド・・・17・40
 カラープリント・・・6・40
 空写し・・・8・9・41

機械シャッター・・・25
 距離目盛・・・32・37・38・44
 距離目盛・絞り指標・・・5・37・44
 クリックストップ・・・31
 クリップオンタイプ・・・36
 クロスマイクロプリズム・・・29
 光軸・・・29
 光量・・・31

【サ】

サービスセンター・・・49
 最小絞り・・・5
 最適正露出・・・28
 三角金具・・・13・44
 三脚ねじ・・・42・43
 三脚ねじ穴・・・12・14・43・45
 35ミリフィルム・・・6・40
 CdS・・・24
 視度調整レンズ・・・30
 しめつけねじ・・・12
 絞り[絞り環]4・5・22・25・27・31・32・39
 絞り込み測光・・・38・39
 絞り羽根・・・31
 シャッター速度・・・4・5・20・22・23・25
 27・31・36・40・48
 シャッター速度優先・・・22
 シャッターダイヤル・・・4・5・10・22
 シャッターダイヤル指標・・・4・20
 シャッターボタン・・・5・8・16・17
 シャッター幕・・・34・42・45
 修理・・・43

手動絞り・・・32
 手動絞りボタン・・・32
 ショルダーパッド・・・12
 シリコンクロス・・・42
 シンクロコード・・・20・36
 自動絞り・・・31・39
 自動絞り解除レバー・・・39
 上下像合致式・・・29
 ストロボ・・・20・36・40
 スプール・・・7・15
 スプールのつば・・・7
 スプールの溝・・・7

スプロケット・・・7・45
 赤外線写真・・・37・40
 赤外線指標・・・37
 接眼レンズ・・・29・45
 セルフタイマー・・・21
 セルフタイマー作動レバー・・・21
 セルフタイマーレバー・・・21
 閃光電球・・・36
 測光範囲・・・23
 速写ケース・・・12～14
 外側ガイドレール・・・7・45
 ソフトケース・・・12～14・41
 ソフトケースの底ぶた・・・12～14

【タ】

ターミナル・・・20・36・44
 耐温度性・・・41
 耐寒性・・・41

タクマーレンズ 38・39
縦位置 14・16・17
段階 27・28
中間絞り 31
中間速度 22
適正露出 22
テレンプ 6
D 30
ディオプトリー 30
電池 2・14・24・25
電池室 2
電池ふた 2・45
特殊フィルム 40
留め金 12・13

[ナ]

No.6 B 36
二重〔多重〕露出 41
ネガカラーフィルム 17・40

[ハ]

発光器 36
パーフォーレーション 7
パトローネ 6・8・15・41
バッテリーチェック 24
被写界深度 31~33
被写界深度目盛 32・37
標準レンズ 48
ピント 16・17
ピント合わせ 4・16・29・30・32・37
ピントリング 4・14・37

B 24・25・36
ファインダー 4・5・23・28・29
ファインダー視度 30
ファインダー窓 4・16・30・32・45
フィルター 14
フィルムインディケーター 11・44
フィルムを入れる 6~11
フィルム室 6
フィルム枚数 11・15
フォトスイッチ 24
複写 27・40
ブラケットタイプ 36
ブローワー 42
保証書 3
保存場所 43
ホットシュー 20・36・44
ボディ 16・17・29・34
ボディの底ふた 2・15
ボディ番号 43
ボディマウント 35・38

[マ]

枚数盤 8・9・15
マウントアダプターK 38・39
前ふた 12~14
巻上げ 4・5・7~9・15・21・41
巻上げ表示窓 8
巻上げレバー 4・7~9・41
巻戻し 15
巻戻しクランク 6・8・9・15・41
巻戻しノブ 6・9

巻戻しボタン 15・41
MAN 39
ミラー 42
無限大撮影 38
明部 26
メカニカルシャッター 25




[ヤ]

矢印 8・9・15・21・41
横位置 16・17

[ラ]

リバーサルカラーフィルム 40
レンズキャップ 4・14・24・41
レンズクリーナー 42
レンズ装着 35・38
レンズ着脱 34・35
レンズ着脱指標 35・38
レンズフード 14
レンズロックレバー 34・35・38
レンズ刷毛 42
レンズ番号 43
露出オーバー 26~28
露出計 22~29・32・39
露出計指針〔指針〕 4・5・22~
25・31・32
露出調節 26~28
露出不足〔アンダー〕 26~28

ペンタックスKM機能諸元表

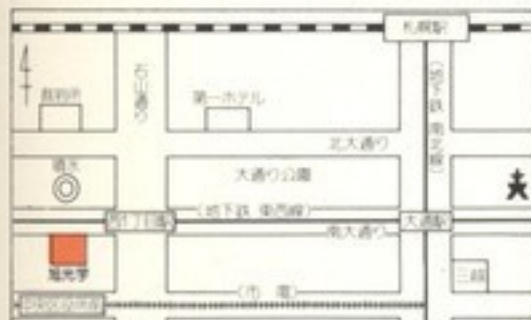
- 型式——手動調節TTL露出計内蔵メカニカルシャッター使用の35ミリ判一眼レフカメラ
- 使用フィルム——35ミリフィルム[J135パトローネ入り]
- 画面サイズ——24×36mm
- 標準レンズ——SMCペンタックスM・50mm・F2 [5群5枚]、最短距離目盛0.45m
自動絞り、直進ヘリコイド、最小絞り・F22、フィルターサイズ・49mm
- 距離目盛——∞~0.45m [∞~1.5ft]
- シャッター——横走りゴム布幕シャッター、B、1、1/2、1/4、1/8、1/15、1/30、1/60、1/125、1/250、1/500、1/1000秒
- シンクロ——ホットシュー[X接点]。FP、Xターミナル[JIS・B型]。Xシンクロは1/60秒
- セルフタイマー——5~13秒。作動中止装置内蔵
- ファインダー——ペンタプリズム式ファインダー。クロスマイクロプリズム式、
像倍率・50mmレンズで0.87倍、視野率・90%、視度・-1.0ディオプトリー
- ピント合わせ——ピントリングを回して、ピントガラス上の映像を接眼レンズで拡大して見る
- ミラー——クイックリターンミラー。
- 巻上げ——レバーによる、巻上げ角・160°、予備角・10°、多回巻き可能、巻上げ表示窓
- 枚数盤——自動復元順算式
- 巻戻し——クランクによる、巻戻し完了表示
- レンズマウント——ペンタックス・Kマウント
- 露出計——平均測光式。受光体・CdS、定点式手動調節。測光範囲は、50mm・F2レンズの場合、ASA100、
EV3~18、ASA目盛・20~3200
- 電源——1.5V銀電池1個[ソニーエバレディーEPX76、またはマクセルG13]
- 露出計スイッチ——フォトスイッチ
- バッテリーチェッカー——なし[ただし、ファインダー内指針の作動状態で検知できる]
- フィルムインディケータ——  、20EX・36EX
- 大きさ——50ミリ・F2付きで、幅143×高さ92.5×厚83.6mm[ボディー+レンズの最大厚み]
- 重量——ボディーのみ・625g[電池付]。50mm・F2付き・793g
- 付属品——標準レンズキャップ、三角金具

お問い合わせは各営業所・出張所・サービスセンターへ



東京 サービスセンター

☎104
東京都中央区
銀座西8丁目10番地
☎03(571)5621(代)



札幌 営業所 サービスセンター

☎060
札幌市中央区
南大通り西11丁目4番27号
☎011(241)8742(代)



仙台 営業所 サービスセンター

☎980
仙台市中央2丁目2番10号
仙都会館
☎0222(61)5681(代)



横浜 営業所 サービスセンター

☎232
横浜市中区不老町1丁目4番6号
東明ビル
☎045(681)8771(代)



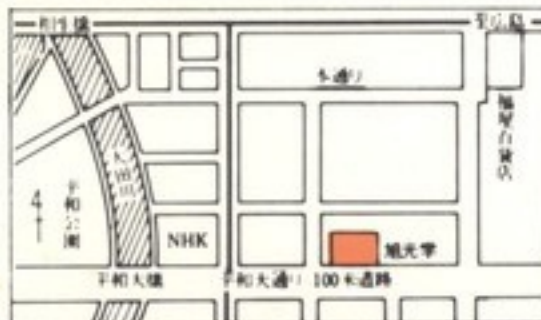
名古屋 営業所 サービスセンター

☎461
名古屋市中区
泉1丁目19番8号
☎052(962)5331(代)



大阪 営業所 サービスセンター

☎542
大阪市南区
塩町通り2丁目1番地
☎06(271)7991(代)



広島 営業所 サービスセンター

☎730
広島市中町8番12号
広島グリーンビル
☎0822(48)4321(代)



福岡 営業所 サービスセンター

☎810
福岡市博多区
中洲中島町3番8号
☎092(281)6868(代)



静岡 出張所

☎420
静岡市伝馬町24番2号
住友建設ビル3階
☎0542(55)6308(代)



高松 出張所

☎760
高松市鍛冶屋町6番地12
池田ビル2階
☎0878(21)7650(代)



旭光学工業株式会社

〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号 ☎03(960)5151代

旭光学商事株式会社

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号 ☎03(580)2051代

